Autodesk Self-Qualified
CIARA TITAN™
a Hypertec brand
GPU Server
MAIL：bsi@ngc.co.jp
ngc

映像新聞

令和元年（2019年） 6月17日 第2388号

株式会社 映像新聞社
Weekly THE EIZOSHIMBUN
(VISUAL COMMUNICATIONS JOURNAL)
〒112-0006 東京都文京区小日向1丁目24番8号エイゾービル
電話：(03)3942-2161(代)／ファクス：(03)3942-2581
昭和42年1月25日 第3種郵便物認可 郵便振替：00140-0-65786
1部600円、年間購読料26,000円(税別)

©映像新聞社
毎週月曜日発行(月4回発行)

新送出マスターが稼働

フジテレビジョン（東京都港区）は、地上波／BS／CSを統合した新送出マスター（以下、新マスター）を完成し、10日早朝、地上波放送の送出を新マスターに切り替えた。クラウドサービスを活用した「総合コンテンツ管理システム」と連携。放送前・放送後の番組素材をデータファイルとして管理する。放送・配信・番組販売（以下、番販）とサービスごとに実施してきた納品業務を一本化できるほか、緊急放送への対応や動画配信サービスへの展開なども容易だ。フジテレビでは、BSやCS放送も順次、新マスターからの送出に切り替える予定である。

総合コンテンツ管理システムと連携

クラウドサービス活用
放送・配信・番販納品一本化

フジテレビでは、2008年12月から運用を開始した旧送出マスターでMXFによるファイルベースシステムを導入。10年にわたって運用してきた。今回、マスター更新に合わせて、局全体のコンテンツ管理・運用体勢を見直し、放送・配信・番販など、コンテンツを番組素材データファイルで一元的に管理することを目指し、AWSのクラウドサービスを活用した「総合コンテンツ管理システム」を構築した。

同システムを新マスターと連携させることで、これまで地上波・BS・CS・配信と別々だったコンテンツ管理を統合。各放送サービス、配信、番販ごとに実施していたVTRテープ（HDCAM）による納品作業を一本化していく。

2月から、放送同録素材をデータファイルとして管理する「デジタルアーカイブ機能」の運用を先行実施し、今回、送出マスターの稼働に合わせて、放送前の素材の管理も開始した。新マスターでは、統合コンテンツ管理システムにある番組データファイルを放送前日に番組送出システムに取り込み、APCシステムによって放送する形となっている。

総合コンテンツ管理システムは、社内サーバー、およびクラウドに取り込んだ番組素材のデータファイルを、ソフトウエアベースのMAM（メディア・アセット・マネジメント・システム）で管理。MAMには、仏ダレットデジタルメディアシステムズ社の「Dalet Galaxy」を採用。国内地上波で、送出マスター設備に同社のMAMを採用したのは初。ダレットを大規模にクラウドサービスと組み合わせた例は世界初という。

ダレットのMAM採用に当たっては、要求仕様書において、フジテレビの設計思想を最も具現化できそうであったこと、同社のMAMが海外の放送局で運用実績が優れていたことなどを評価した。

総合コンテンツ管理システムのシステムインテグレーターはフジテレビの関連会社であるフジミックが担当。字幕など、ダレットのソフトウエアで日本の放送用途に使いにくい部分をフジミックがカバーする形でシステム構築を進めた。

総合コンテンツ管理システムへのファイリングは、新たに設置したインジェストセンターがオペレートを担当。ここでは、スタジオやポストプロダクションなどから搬入される番組素材（XDCAMで統一）や、オンラインで搬入されるFOD（フジテレビオンデマンド）の素材をデータファイルとしてサーバーにインジェスト（2週間分）し、放送前日に同ファイルを番組送出システムに転送する。〈3面に続く〉


新送出マスター


奈良テレビ放送は、3月に完成した4K/HD対応オールIP中継車のレンタル営業を開始した。このIP中継車は、ソニーのIPライブ伝送技術「ネットワーク・メディア・インターフェース（NMI）」を利用して構築されている 〈詳細2面〉

フジテレビ

特集 ケーブルコンベンション2019 ケーブル技術ショー 11―14面

本号の主な記事

［プロダクション］
JPPA AWARDS贈賞式/経産大臣賞、グランプリを発表 ……2
［技術開発］
四面楚歌のファーウェイ/米国の措置で独自路線 ……8
［通信］
総務省が「平成30年通信利用動向調査」の結果発表/スマホ保有世帯79.2％に ……9
［大型映像］
エディオンなんば本店/屋外大型ビジョンが稼働 ……16

映像新聞ウェブサイト
http://www.eizoshimbun.com
購読のお申し込みはこちらから

■MULTI FORMAT CONVERTER
XC 2 SERIES
2つのビデオプロッセッサ搭載
スーパーインポーズ・P in P 表示
HDMI・DVI・3G/HD/SD-SDIの広範囲な各種デジタル映像信号を2入力2出力で相互に変換するマルチフォーマットコンバータです
XC 2 ベーシックモデル | XC 2 sio SDI入出力対応
株式会社 デジタルアーツ
http://www.digitalarts.co.jp
Digital Arts

LAWO NAV & Control
V__matrix
SOFTWARE-DEFINED IP CORE
ROUTER & PROCESSING PLATFORM
未来のコンセプトを現実のものに
既存のハードウェアの概念から開放された、バーチャルモジュールによるソフトウェアデファインドIPコア
大容量の汎用IPスイッチを中核としてIPコアをネットワーク上に配し、バーチャル・ルーター・プロセッサーを構築
既存のシステム以上の可用性、柔軟性、拡張性を実現します
AIMS Media Networking Alliance RAVENNA

grass valley
A BELDEN BRAND
ライブイベント中継システム
既存のレンズ環境にそのまま適応
HDR - HLG /ST 2084
15 Fストップのダイナミックレンジ
広色域 - BT.2020
IP入出力 - SMPTE 2022-6 /TICO
Native 4K *
HiSpeed (3X)
XtremeSpeed (6X)
LDX 86N シリーズ
LDX 86 シリーズ
B4 マウントカメラ
K2 Dyno Universe
リプレイシステム
＊いずれの機能もオプションにより対応
＊Native 4K 対応はLDX 86N

スチューダー・ジャパン－ブロードキャスト株式会社
映像システム部
システム提案、設計、施工
〒108-0022 東京都港区海岸 3-3-8
03-5730-0780 www.studer.co.jp

奈良テレビがレンタルを開始

IP中継車を展示会で披露

7メートルの車両で4K10カメを実現

奈良県の独立局である奈良テレビ放送は、3月に完成した4K／HD対応オールIP中継車のレンタル営業を開始した。またこれに合わせ、5月30―31日に宮城県仙台市で開催された展示会「東北映像フェスティバル」や、6月12―14日に千葉県の幕張メッセで開かれた「Connected Media Tokyo（CMT）2019」で国内初展示した。

このIP中継車は、ソニーのIPライブ伝送技術「ネットワーク・メディア・インターフェース（NMI）」を利用して構築されている。NMIは、シンプルで効率的なシステム構築が可能なことから、同車では4K系統だけでなくHD系統にも採用。これにより、SDIルーティングスイッチャーのない映像システムを実現した。音声システムもIP化しており、映像音声双方のIP化に対応した「オールIP化」のライブ制作システムを実現している。

設備には、ソニーのプロダクションスイッチャー「XVS―6000」やビデオサーバー「PWS―4500」、システムカメラ「HDC―4300／HDCU―4300」を配する。ネットワーク機器はファーウェイ「クラウドエンジン8800シリーズ」を、セットアップなどに使うIPライブシステムマネージャーはソニー「PWS―11ONM1」を利用する。

同社は、自社でのデ…運用に加え、稼働率を向上させるために…


浅井氏㊨と都筑氏（CMT2019にて）


スイッチャー卓

中継車のレンタル事業を始めた。東北映像フェスティバルへの出展は、システム構築の担当社であり、同展示会の出展者でもあるソニーの協力により実現した。CMTではファーウェイが出展した。

奈良テレビのクロスメディア局次長兼技術部長である浅井隆士氏は、「自社の中継で年間50日程度の利用となる見込みで、残りを外部にレンタルすることで稼働率を上げていく」と説明。東北での出展については「仙台の各局をはじめ、近県からの視察もあり、高い関心がうかがえた」と手応えを感じている様子。

奈良テレビのクロスメディア局技術部部長代理である都築賢氏は、「当社は技術部長以下、柔軟性に優れるIPを推進しており、今回の中継車の実現に至った」と話す。「フルIP化で設備がコンパクトになった分、HD6カメだった従来のカメラ台数を、7メートルクラスの中継車でありながら4K10カメ対応にしている。ビデオエンジニア（VE）の作業環境も妥協していない」とする。

同社は、同じ構成でスタジオサブも同時期に更新しているが「いずれもIPに由来するトラブルはない」（浅井氏）という。また「4K HDRのノウハウを培うためにも、HDでも4K HDRで制作してダウンコンバートすることを基本にすることを考えている」（同氏）としている。

JPPA AWARDS贈賞式

経産大臣賞はIMAGICA山口氏

大賞はPTHREEの嶋田氏に

日本ポストプロダクション協会（JPPA）は5月31日、東京・北青山の「ザ ストリングス 表参道」で「JPPA AWARDS 2019」贈賞式を開催。経済産業大臣賞1作品とグランプリ1作品を発表した。

経済産業大臣賞は、映像技術部門（カテゴリー＝映画／その他）から、『日日是好日』の山口登氏（IMAGICA Lab.）が受賞した。

グランプリは映像技術部門（グレーディング、広告）から『SIGMA Brand Movie』嶋田真幸氏（ピラミッドフィルムPTHREE）に贈られた。

同作品は、茶道をテーマにした作品として、日本の季節や伝統の美しさを巧みに表現していることが評価された。山口氏は「女性の着物の華やかさや、フェーストーンと着物のバランスに気をつけながらグレーディングした。カメラマンや監督の要望に応えると同時にグレーダーの特色を出せればと思っている」とあいさつした。SIGMA Brand Movieは、SIGMAの製品が製造されている会津工場を舞台に、製品および作り手と使い手、彼らを取り巻く環境や会津の自然を描いたもの。嶋田氏は「受賞できると思っていなかったので嬉しい」と喜びを述べた。

音響技術部門はグランプリ作品が「該当なし」となったほか、優秀賞のなかにも「該当作品なし」というジャンルがあった。審査委員長の多良政司氏からは、「エントリーシートのLTFS値が審査時の値と異なるものがあった。技術賞であり、正しい状態で評価できないと恐れがあることから審査対象外とした」と説明があった。

◆役員人事も発表

同日に開催されたJPA総会懇親パーティーでは、2019―20年度の役員人事を発表した。

会長には三上信一氏（東京サウンド・プロダクション社長）を再任し、副会長には前専務理事の鈴木仁行氏（レスパスビジョン社長）と理事の古迫智典氏（キュー・テック社長）が就任。専務理事には理事の竹井直哉氏（ピラミッドフィルム取締役ピースリー事業本部本部長）が就いた。


経済産業大臣賞の山口氏㊧とグランプリの嶋田氏



一般部門の受賞者



学生部門の受賞者



（左から）竹井氏、古迫氏、三上氏、鈴木氏

多目的簡易ブース（アナウンス・編集・MA）
あなたのオフィスがスタジオに～
安価
簡単設置
短期で施工
●サイズはフレキシブル（設置場所に対応）
●解体・移設も可能
●遮音性能 Dr40
映像スタジオ施工
MA室 ブース 各種 編集室 注文制作家具
Takahashi Construction Co., Ltd.
SOUND PROOF
～映像・音響専門
SINCE1979～
一級建築士事務所
高橋建設株式会社
本社 〒216―0032 神奈川県川崎市宮前区神木1―7―8
TEL044-853-0547 FAX044-852-1588
（社）日本ポストプロダクション協会会員／（社）日本音楽スタジオ協会会員
（社）日本音響学会会員
デジタル映像環境に対応、直営システムに依る徹底したコストダウン
映像・音響・防音
プランニング・施工
http://www.takahashi-kensetsu.co.jp
info@takahashi-kensetsu.co.jp

IP LIVE UTILITY INTEGRATOR
HiTech Systems Limited
リモートプロダクションを実現する最も簡単なソリューション
※当社比
リモートサイト
オーディオ/2W・4Wインカム/タリー/GPIO/RS422・232
IPネットワーク
CCU 1
CCU 2
CCU 3
サブコントロール
フロント
リア
中継先にカメラを置いて、制作は遠隔地の放送局とIPで接続することができ、4K映像は最適なコーデックを使用して IP 伝送を行い、カメラへのタリー、インターカムや RS422 データ等を IP LIVE UTILITY INTEGRATOR で伝送できます。もはや、中継先に多くの機材を輸送するコストやスタッフの人件費を抑えることができる真のリモートプロダクションを実現することができます。
松田通商株式会社
▶http://mtc-japan.com
本　　社　〒107-0062　東京都港区南青山3-3-15　MTCビル　Tel: 03(5413)4611　Fax: 03(5413)4618
大阪営業所　Tel:06（6101）2822　Fax: 06(6101) 2823　Mail: inquiry@mtc-japan.com

J:COM 18年度総括と19年度事業方針
4K STB 20年夏に100万台へ


井村社長

ジュピターテレコム（J:COM）は5日、井村公彦社長が2018年度の総括、19年度の事業方針を説明した。

18年の総括では、最大のサプライズが、グループの映画配給会社であるアスミックエースが『カメラを止めるな！』を大ヒットさせたこと、関東エリアにおいて、今年度上期からガスの販売に参入したこと、新4K放送対応STBの「4K J:COM Box」の設置台数が2月末時点で10万台を突破したことなどを挙げた。

19年度3月期の連結業績は、営業収益が前年度比3・6%増の7565億円だが、営業利益、純利益はともに対前年度で微減となった。これは4Kサービスに伴う各種費用、各地での自然災害に伴う費用が膨らんだことが要因と説明した。

CATVの加入者は、ホームパスが3月末で264万（スプラ22）、ネットワーク接続世帯が383万（スプラ10）、CATVが383万（スプラ5万）など、ほぼ計画どおりに増やせたという。Mx」を、20年夏には、設置台数100万台まで拡大することを目指す。

27日から、ホームIoTサービス「J:COM HOME」、今秋から第3世代STBをリリースする予定だ。

19年度の事業方針では、4月末に設置台数が22・7万台と、4Kテレビ全体（95万台／A-PAB発表数値）の24%を担う「4K J:COM Box」を、20年夏には、設置台数100万台まで拡大することを目指す。

27日から、ホームIoTサービス「J:COM HOME」、今秋から第3世代STBをリリースする予定だ。

マルチチャンネル放送、臨時放送への本格的な対応、さらにIP配信出力も備えたことを挙げる。

地上波・BS・CSで仕様を統一・最小限としたことで、人的な負担を軽減した。またラック数も従来に比べて30本ほど削減し、使用電力も従来比¾ほどの省力化を実現している。

CMバンクシステムは二重化しているが、バックアップとしてソニーのファイルベース一本化システムを導入。これまでスタッフが実時間をかけてベースバンドで作成していたCM素材のバックアップを、ほぼ自動的に作成できるもので、仮にAPCに障害が発生しバンクシステムが動作しなくなっても、同システムからCMの送出ができる。

バンクシステムは、CMが15秒換算で1万5000素材の容量。番組は、総合コンテンツ管理システムのサーバー（100テラバイト）に2週間分が蓄積され、送出システムには当日・翌日分を送り出している。転送した番組素材はクラウドに送り、サーバーの素材は放送後に消していく。

新マスターでは10月にBSフジ（2K）、20年2月にCS ONE／TWO／NEXTの送出を開始する予定だ。

フジテレビ 新送出マスター稼働
メタデータを統合管理
アーカイブの検索・再利用簡便に

〈1面から続く〉

その一方で、放送が終了した番組をクラウドサービスにアーカイブしていく。同センターでは、ダレットのGUIによって、インジェスト、QC、番組送出システムへの転送などを制御する。

また、FODの配信プラットフォーム、番販に対しては、それぞれに応じたトランスコードやパッケージングを実施し、適切なファイルを提供する。メタデータも統合的に管理し、アクセス権のある社員やスタッフがアーカイブを検索・プレビューし、貸し出しをうけて再利用したり、制作側が修正・再納品したりできる。


井村氏

クラウド上のアーカイブなどの素材に対しては、外部からはアクセスできないよう10Gbpsの専用線を引いており、この専用線経由でなければアクセスできない仕組みにした。この専用線はDR（Disaster Recovery＝災害復旧）対策として異なる場所に2本引いている。


米岡氏

統合コンテンツ管理システムの利点について、構築を担当した技術局放送技術センター放送部副部長の井村紀彦氏は、これまで地上波、BS、CS、FOD、番販の各担当者がそれぞれマスター側に番組素材を納品していたものが、インジェストセンターに一本化されることを挙げた。

送出マスター設備に関しては、これまで番組はファイルで扱っていたものの、CMやVAF（提供など）、伝送系は、ベースバンド中心にファイル以外の形式を使っていた。今回の新マスターでは、番組とともに、CMやVAFもファイル化している。

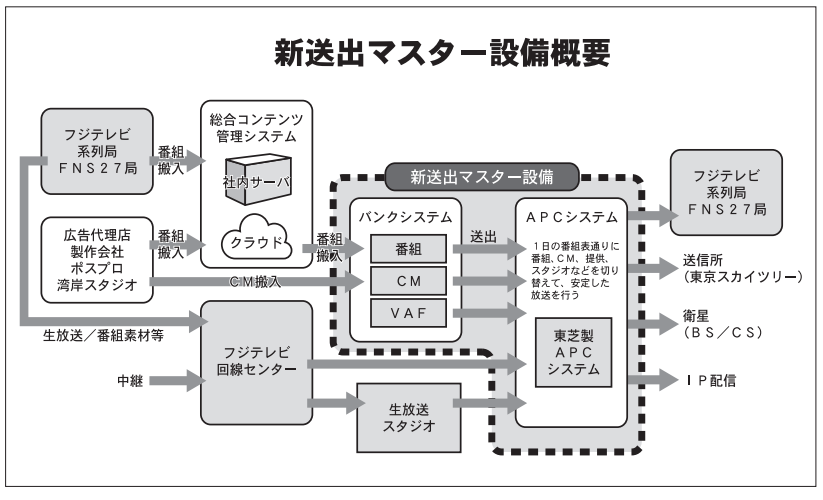
新マスターの構築は東芝が担当。番組・CM・VAFを送出するバンクシステム（東芝製Videos neo）と、1日の番組表どおりに番組、CM、提供、スタジオを切り替えて安定した送出を制御するAPCシステム（東芝）で構成される。

新マスターでは、統合コンテンツ管理システムから転送された番組素材をVideos neoに収録・送出する。CMについては、広告代理店などからXDCAM、およびオンラインなどで搬入され、同様に収録・送出する。

井村氏は、総合コンテンツ管理システムはダレット、送出マスターは東芝ということで、システムの親和性を図ることに苦労したという。

また配信、番販とも親和性を持つ必要があり、ファイルの取り扱いについて、コンテンツサーバーにリテイクなどで複数回取り込まれ、複数個になった番組ファイルも一本化できるようにするなど、工夫をしている。

技術局放送技術センター放送部主任の米岡充裕氏は新マスターの特徴について、地上波・BS・CSの送出マスター設備の仕様を統一・最小限にし、扱いやすくすることで、送出オペレーションを効率化したこと、



送出オペレーションを効率化

12G-SDI 対応
LiveU
モバイル中継装置
LU600 4K-SDI
●4K-SDI 対応（12G-SDI/3G-SDI x4）
●最大 11 回線ボンディング（内 LTE x8 回線）
●高速起動（約 30sec）
●タッチパネル操作
LU300HEVC
●小型軽量設計
●最大 6 回線ボンディング（内 LTE x4 回線）
●高速起動（約 30sec）
●JOG コントローラ操作
LiveU レンタル好評受付中！！
LiveU 送信機、又は送受一対向をお貸出。（モバイル回線付き）
海外レンタルにも対応、お問い合わせください！
三信電気株式会社 ソリューション営業本部 映像システム営業部
〒108-8404　東京都港区芝 4-4-12　Tel：03-5484-7270 / E-mail：eizo-info@sanshin.co.jp
http://www.sanshin.co.jp/business/solution/vd

TriCaster® Mini NDI® セットキャンペーン
NewTek
NDI|HX PTZ-1
・式典のライブ中継（学校行事、成人式）
・屋内音楽ライブ、講演会、市町村議会中継
・結婚式会場の収録・中継・配信
・企業内放送配信、監視用…など
LANケーブル1本でカメラ映像・音声相互通信制御が行えます。
SKAARHOJ
PTZ Fly
カメラコントローラ
モニターは別売
TriCaster Mini HDMI
キャンペーン価格 ￥1,780,000（税別）
※IPネットワークには NDI（Network Device Interface）を採用しております。
＊キャンペーン期間：2019年2月7日～9月30日 ご注文分まで。
NDI|HX PTZ-1、Connect Spark、BirdDog Studio 国内販売総代理店
brains
株式会社ブレーンズ・システム
〒243-0402 神奈川県海老名市柏ヶ谷４６１－１
TEL 046-244-3321　FAX 046-236-3853
Mail:sales1@brains-system.co.jp

民放キー5局の2018年度決算は、連結も単体も売上と営業利益の状況が各社各様だった。その中でも、フジテレビジョンとテレビ朝日は、視聴率が改善しながらも、いまひとつ広告収入に結びついていない。両局の状況を考えてみる。

（特別取材班）

民放キー局の決算 中

フジとテレ朝

増収増益も本業は減

視聴率が収入に反映されず 広告外収入で補う展開に

★18年度 増収増益

フジの収支は、10―11年度は連結単体共に増収増益だったが、12年度以降、変化してきた。連結は13―14年度増収減益、15年度減収減益、16年度増収減益、17年度減収増益を経て、18年度で増収増益となった。

一見、好調に転じたように見えるが、本業では広告収入減が続いている。単体を振り返ってみると、12―16年度に減収減益が続き、17年度減収増益。そして収支は18年度に増収増益に転じたが、広告収入は前年度比でざっ44億円と減収続きのままなのだ。

フジ単体売上は、11年度から6年で700億円近く減り、2割近い減収になっている。最大の要因は視聴率の低迷と、減少続きの広告収入だ。

同局は80年代から20年以上にわたり、視聴率でトップグループを走り続けた。しかし05年をピークに、低落傾向となった。G帯（午後7―10時）では、05年度の14・3%が17年度は7・8%となった。6・5ポイント減は45%を失った形だ。

視聴率の下落は、2―3年を置いて広告収入に反映しているように見える。7―9年の経済不況を除けば、12年度以降は右肩下がりが続いている。11年度の2481億円は、17年度に1907億円にまで減少した。差の574億円は、ほぼ4分の1にあたる。

それが18年度は、G帯視聴率で0・3%増、P帯（午後7―11時）も0・2%増と、久々に視聴率が反転して上昇した。それまでも広告収入は150億円以上の減少となっている。

★鈍化する成長ペース

テレビ朝日の18年度も、視聴率を上げながら広告収入が減少し、フジ同様、苦しい状況になっている。

そもそも同局のピークは12―13年度。それまで連結単体ともに、売上も営業利益も大幅増が続いた。それが14年度以降ペースは鈍化に転じ、18年度は連結単体ともに減収減益となった。

同局の視聴率は10―12年度にかけて、3年連続で改善している。そして12年度は、開局以来初のGP帯トップとなり、全日でわずかに0・1%届かず三冠を逃していた。

しかし、以降は3時間帯とも減少傾向となる。これに連動して広告収入が変化し始めた。09―13年度の4年間では250億円近く増やした。1年あたり60億円以上の増収だ。それが13―17年度は、年間3億円ほどの微増にとどまっている。成長ペースは20分の1まで落ちてしまった。

そして18年度、視聴率は反転攻勢に転じた。前年度比で全日が0・3%、G帯0・6%、P帯0・6%と、三時間帯とも久しぶりにプラスに転じている。ただし広告収入は、50億円近いマイナスとなった。

視聴率と広告収入は、直結せずタイムラグが生ずる場合がある。例えば同局では、10―12年度に視聴率が急伸したが、広告収入は伸び悩んだ。逆に13―17年度は、視聴率が急落したが広告収入は微増を続けた。18年度の視聴率上昇も、広告収入に反映するのに時間を要するかもしれない。

同局の視聴率については、いろいろな見方がされている。例えば『ポツンと一軒家』は、6月上旬の放送で初の20%超を果たした。裏の日テレ『イッテQ』を5ポイント以上も引き離したのである。

しかしこれは世帯視聴率の話で、個人視聴率では両番組に大差がない。しかも視聴者層では、前者は65歳以上が大半だが、後者は若年層が多い。

スポンサーにとっては、『ポツンー』より『イッテQ』の方がCM出稿したい番組なのである。視聴率に広告収入が伴わないのは、こうした事情が絡んでいる。

★伸びる広告外収入

フジの広告収入はこの10年減少続きだが、連結売上高と広告収入の差額で見ると、当稿で便宜上「広告外収入」と呼ぶ部分は増え続けている。15年度は255億円、16年度2255億円、17年度34億円、そして18年度は271億円も伸ばしている。都市開発など不動産部門の存在が大きい。

この「広告外収入」の連結売上に占める比率は、1990年代までは3割を切っていた。その中でフジは、CSやBSを積極展開。さらにM&Aなどで多角化を進め、フジサンケイグループの関連会社を増やしていく。

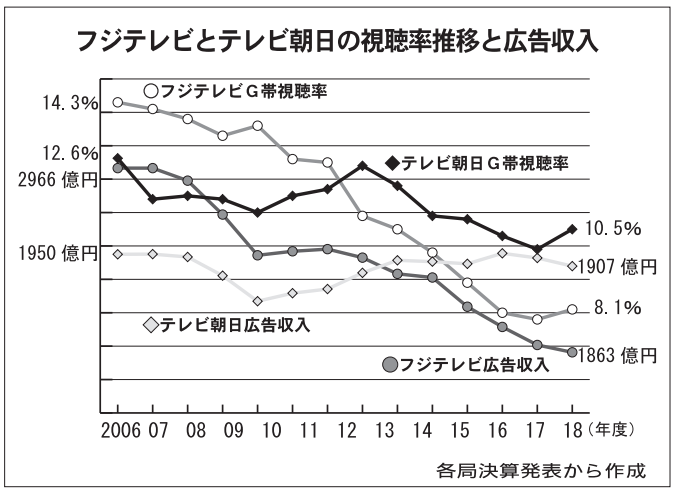
この結果、「広告外収入」比率は08年度に5割を超え、今は7割を突破している。

テレ朝も、フジほどではないが「広告外収入」に努力してきた。12―13年度に日テレと三冠王争いを演じたように、本業が最大のテーマだったために、他局より多少、取り組みは遅れている。

それでも14年2月に「5メディア戦略」を発表。地上波・BS・CS・インターネットに加え、リアルなイベントなどの5チャンネルで、コンテンツを核としたマルチ展開を図り始めた。

これにより広告外事業が一段と加速。今では広告外収入は37・7%だ。10年で15ポイントほど伸びたことになる。

フジとテレ朝は、18年度は視聴率が伸びたが、広告収入が減少し、広告外収入が補った形だ。もっとも、視聴率は上向き始めているので、今後は広告収入とそれ以外の両輪で、収支を改善する可能性がある。





1M/Eで12G-SDI 10入力
現場持ち出しに最適
12G-SDI 対応ビデオスイッチャー **HVS-1200**

SFP+および
SR Live for HDRに対応
SR Live for HDR
4K/12G-SDI/HDR/ 広色域対応 2 系統プロセッサー **FA-9600**
SR Live for HDR はソニーイメージングプロダクツ&ソリューションズ株式会社の提唱する HDR 映像制作ワークフローです。



4K 1系統またはHD 2系統送出
幅広い番組制作に対応
12G-SDI 対応 キャラクタージェネレーター　**EzV-300-12G**

APC送出システムに
対応したビデオサーバー
12G-SDI 対応ビデオサーバー **MBP-1000VS シリーズ**



ケーブルコンベンション関連イベント
ケーブル技術ショー
Cable Tech Show 201
6/19、20
ブースNo.
B-23

FOR-A World of Possibilities FOR-A®

急成長 宇宙ビジネス 4

日本企業の宇宙産業への参入は遅れている。日本における宇宙産業の規模は2017年で約34億㌦（3572億円）である。一方、世界では、宇宙関連事業に参入するベンチャー企業が急増。小型で安価な衛星群を多数打ち上げ、衛星のリモートセンシングサービスから得られる宇宙ビッグデータを活用したさまざまなビジネスが展開されている。

参入遅れる日本

★世界との差開く一方に

わが国の宇宙産業は、推移表（図表1）を見て分かるように、15年以上でわずかしか成長していない。09年から17年のCAGR（年平均成長率）は0・37%と世界の平均成長率6・4%と比べて桁違いに低い。

日本の世界における宇宙産業のシエアは、09年が1・42%だったものに対して、17年では既に0・88%と1%を割り込んでいる状況である。世界との差は開く一方になっている。

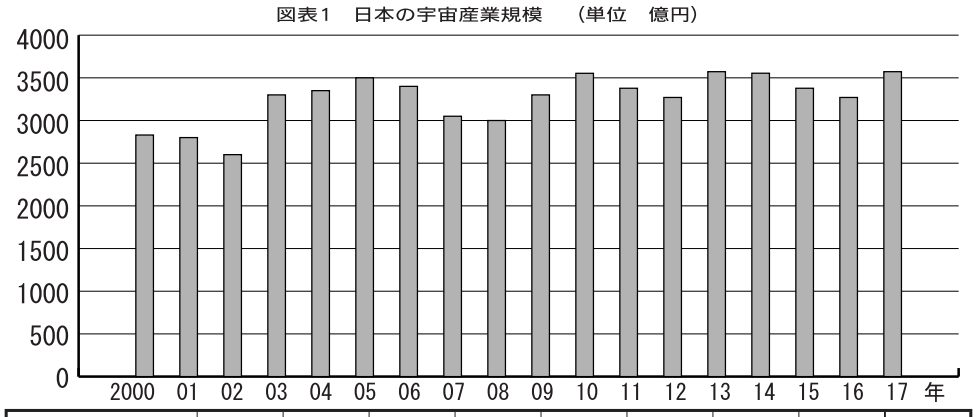
日本政府の17年の宇宙開発予算は32億3500万㌦（約3420億円）であることから、わが国では宇宙産業の96%が政府支出に依存している状況である。民間市場の拡大が急務である。

ちなみに16年における国家別宇宙への発射回数は中国が22回と最多で、米国21回、ロシア19回、欧州9回、インド7回、日本4回が続いている。

また、17年の宇宙開発予算は、米国が444・4億㌦（約4・7兆円）と最も多く、次いで欧州58・2億㌦（約6160億円）、中国43・2億㌦（約4570億円）、日本35・7億㌦（約3420億円）、ロシア16・3億㌦（約1725億円）と、日本は4位に位置している。

国家別の国内総生産（GDP）と比べた宇宙開発投資の割合は、米国0・239%、ロシア0・122%、日本0・062%、インド0・049%、韓国0・046%となっており、政府予算の見劣りは少ない。

図表1　日本の宇宙産業規模　（単位　億円）



	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
世界の宇宙産業	2,345	2,439	2,709	2,857	3,025	3,300	3,229	3,290	3,835
日本の宇宙産業	33	32	29	29	31	34	32	31	34
■シェア	1.422	1.327	1.072	1.000	1.039	1.025	0.996	0.947	0.887

（単位　億ドル）

出所：経済産業省「製造産業局宇宙産業室　宇宙産業の現状と課題について 2016」等によりCDI作成

世界ではベンチャー急増

安価な超小型衛星が参入助長

★ベンチャーのチャンス

多数のベンチャー企業の参入も衛星サービス市場成長を加速させている。

近年、世界で宇宙関連事業に参入するベンチャー企業が数多く設立され、ベンチャー企業が通信・観測衛星分野などにおいて、小型で安価な衛星群を多数打ち上げている。

さらにそれら衛星のネットワーク化を実現する通信ソフトウエアや、衛星からの映像ビッグデータを使ったAI、IoTサービスの構築を目指す企業が多数出現している。

先行する米国では、衛星の製造から打ち上げ、産業利用、運用管理まで、100社以上のベンチャー企業が競い合う。

ベンチャー企業の衛星群打ち上げの参入増加要因は、安価な超小型衛星（重さ100㌔㌘）が数億円で製作可能になったことが大きい。

また、民間の部材を利用していることから、新規モデルで2年、同型モデルであれば1年で製作可能だ。投資リターンまでの期間が短縮され、ビジネスモデルの見通しが立ちやすくなることが、ベンチャー企業の参入増加を助長した。

衛星のリモートセンシングサービスから得られる高精細画像をビッグデータの一部として解析することで、新たなマーケティングサービスやコンサルティングサービスが登場している。海外では既に衛星を利用した農業・漁業サービスも拡大しつつある。

宇宙ビッグデータで事業創出

★多彩な適用分野

衛星からリモートセンシングされた映像をここでは宇宙ビッグデータと呼ぶ。その適用が期待されている分野としては観光、見守り・安心安全、測量・地図作成、IoT農業（無人農業含む）、漁業、自動車、公共交通機関の自動走行、ドローンの追尾監視、無人物流など多種多様だ。関連事例を4ケース紹介する。

1つ目が「センシング技術を活用したファイナンスコンサルティング」。米国Orbit Insight社は石油タンクの映像から独自のノウハウで貯蔵量を推計し、今後の石油価格を予想する目安を加えた先物取引のコンサルティングサービスを実施する。

また同社は、ショッピングセンター付近の道路の車の動きを分析し、モールでの売り上げとの相関分析をアドバイスするマーケティングコンサルティングも提供する。

2つ目は、「畑の映像を数値化し、収穫のアドバイスをする農業総合支援サービス」だ。

蘭Dacom社は、農場の温湿度や風向・風速などを測定、収集する環境センサーと、収集したビッグデータを分析するソフトウエアで、農薬・殺虫剤などの薬品や、水などの資源の使用量を最適化し、収穫量を最大化しながら低コスト化を実現する。

NECと実施した実証事業では、ルーマニアのじゃがいも農場における化学薬品の使用量を、最大40%削減できたという。

3つ目は、衛星から得られる海水温などの情報をサービス提供している漁業情報サービスセンター（JAFIC）の取り組み。データ解析システムにより、漁場探索の29%削減、漁獲量の21%増加、給油の13%を削減できたという。

JAFICは「人工衛星の活用は、勘と経験の漁業からIT漁業への移行を加速する」としている。

そして4つ目が、仏APP4NAV LLC社の、観測衛星データを含む気象・海洋情報を基に、最適な海洋ルートを案内するアプリ提供だ。同社はこれとともに、google play上に一般ユーザー向けとしては世界初の可視化気象アプリ〝Weather4D〟を提供している。

（コーポレイトディレクション　奥村文隆）





迅速な処理でワークフローに貢献

日テレ・テクニカル・リソーシズ

インサートエディットソフト cineXtoolsを採用

オーディオファイルをMXFファイルにインサート

日本テレビ放送網グループの技術総合プロダクションである㈱日テレ・テクニカル・リソーシズ（N.iTRo）は、日本テレビが4月からXDCAM運用に切り替えたのに合わせて、ファイルベース運用への取り組みを進めている。同社は、迅速で確実なワークフローを確立するために、東京・汐留地区のMA室に米cinedeck社のインサートエディットソフトウエア「cineXtools」を採用した。

N.iTRoは、ドラマやドキュメンタリー、報道、情報、バラエティーなど放送番組の制作技術から中継、送出などの技術、ポストプロダクションサービスまでを幅広く提供している。

ポストプロは東京・汐留と渋谷に拠点を持ち、リニアおよびノンリニア編集、MAに加え、CG制作やダビング、デジタイズ、ファイル変換に対応。素材のインジェストから納品まで、8K・4KとHD制作の一貫したワークフローを構築している。


駒路氏㊧と石井氏


cineXtools


cineXtoolsを操作する石井氏

新版にリニューアルした大型イベントがひと段落ついた1―3月を選び、各部屋を順次工事するなど作業を止めることなく実施したという。

ポスプロ技術部担当部次長の駒路健一氏は、「渋谷で稼働するN.iTRo SHIBUYAでは既にProToolsを利用しており、当社の汐留と渋谷拠点、および日本テレビの生田スタジオのシステムを統一することから導入しました。これにより、スタジオ間でのMAデータの受け渡しをスムーズにすることができます」と話す。

また、日テレタワー内で運用するポストプロ設備「SHIODOME 19BOX」では、稼働するCスタジオ」と「Dスタジオ」のメインのミキサー卓を、STUDER製「VISTA1」に更新した。

VISTA1は、SHIODOME 19BOXのAおよびBスタジオに既に「VISTA5」が導入されていることから選択した。

MAミキサーの石井康博氏は、「操作性がこれまでと同様であることが理由の1つです。また当社は、生放送用の撮って出しの作業といった特徴があり、スタジオサブでも多く使われています」と話す。


Dスタジオ


VISTA1

また以前の卓よりもコンパクトになったため、3名分のソファーを追加して、大人数での仕上げに対応した。プラグインソフトも新しくなり、さらに高度なエフェクトやノイズリダクション処理をすることができる。

19BOX内の4室のMA用には、以前から利用していた素材共有サーバーのDDP（48テイド）も更新した。安定性や使い勝手などを評価しており、引き続き選択した。

DAWをプロツールスに一新

システム設計・施工は三友㈱が担当した。

◆cineXtools

DAWをプロツールスに一新するにあたっては、作成したWAVファイルを、編集部門がグラスバレー「EDIUS」で完成させたMXF OP1―aファイルに、どうインサートするのかが課題となった。

石井氏は「ファイルベースでの運用においては、映像ファイルとオーディオファイルを1つのファイルにまとめて完成させることが必要になります。しかしProToolsにはその機能がありません。今後、ファイルで直接納品することになった場合、MA室内で時間と手間をかけることなく、迅速に作業を完結するにはどのようにすべきか考えました」と話す。

このとき、課題解決のツールとして名前が挙がったのが、cinedeck社のソフトウエア「cineXtools」だった。石井氏は「初めてデモを見たとき、数分の短い映像に数秒で音声をインサートできることに非常に驚きました」と感想を述べた。

cineXtoolsは、2016年の米展示会「NABショー」で発表されて以来、映像業界で高く注目されてきた米cinedeck社製のスタンドアロン型ソフトである。

ことが運用上のネックとなってきた。

cineXtoolsは、テープベースでの編集のようにファイル上でイン点とアウト点を指定し、映像や音声を直接インサートすることができる。つまり、変更を組み込むために全体のレンダリングや書き出しを再度する必要がなく、同時に、ファイルのほかの部分は元のままである。このため作業後の確認やQCを短時間で終わらせ、迅速に仕上げることができる。

WAVファイルをMXFファイルに挿入するのも同様に、素早い作業が可能となる。石井氏は、「MA室で実際の素材を使ってテストしていますが、ファイルの選択、チャンネルアサインやイン点アウト点の設定などを済ませれば、実際の処理は、5分程度の尺であれば10秒程度で完了しています」と説明する。

同時に、「現在はXDCAMディスクやステーションのファイルを一度PCに移してから作業してますが、今後、このファイルに直接書き込むことができるようになれば、より使いやすくなると思います」とも話しており、今後の展開を期待している。

同社では現在、ProToolsと同じMacProにインストールし、7室全室で利用できるよう整備している。また、XDCAMへの書き込みやデッキでのファイル互換に問題がないことは確認済みだ。

SHIODOME 19BOXは日本テレビ局内で稼働するスタジオとして、情報・報道番組の撮って出し映像を多く制作する。このため設備に関しては、迅速性と安定性を通常のスタジオよりも一層高く求めている。ファイルベース運用に向けて同社は今後も段階的に整備していく計画であり、cineXtoolsは、その処理速度の速さと利便性の高さにより、同社の今後のワークフローを支えるものになりそうだ。

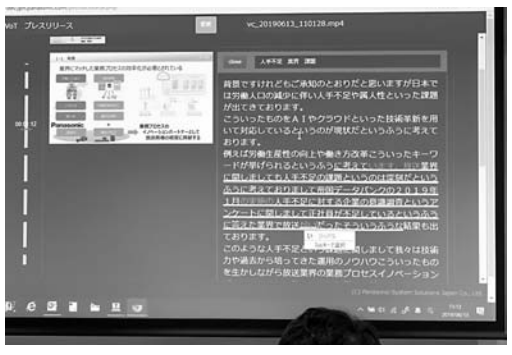
【cineXtools輸入販売元】㈱ニューエックス（www.newx.co.jp）

パナソニック システムソリューションズ ジャパン
文字起こしサービスを提供開始
業務プロセスイノベーションを提案

パナソニック システムソリューションズ ジャパン（PSSJ）は13日、音声処理・音声認識技術を活用した放送業界向け文字起こしサービス「P−VoT（ピーボット）」のベータ版サービスの提供を始めた。同日には、放送事業の取り組みや新規開発製品を展示した、放送局ユーザー向けの「放送機器内覧会」も開催し、その実装案を披露した。

P−VoTは、放送業界の大きな課題である働き方改革への貢献を目指したサービス。同社のシステム技術、映像／音声処理技術を活用することで、報道分野における取材動画や音声からの原稿テキスト作成を高速化、効率化することができる。

ニューラルネットワーク技術（AI）を使った高精度の音声認識により、幅広いジャンルの文字起こしに対応するほか、インターネットに接続されたブラウザで利用できる。映像や音声と連動させて結果確認や修正が可能、複数人で修正することもできる。



P-VoTの実演


業務プロセスイノベーションの展示

PSSJパブリックシステム事業本部システム開発本部の梶井孝洋統括部長は、「パナソニックはこれまでも、OTCや生字幕制作システム、ファイルベースシステムなど業務プロセスイノベーションに取り組んできた。これからはシステムをつなぐ、チームでシェアする、認識技術で自動化する技術を活用し、制作現場の効率化に貢献する」と説明した。

放送機器内覧会では、業務プロセスイノベーションをテーマとするコーナーを、取材・編集とニュース送出、送出・配信の3つの工程に分けて展開した。

P−VoTは、回線収録でのリアルタイム文字起こしを提案。中継やロケ収録と同時に文字を起こすことができる。ファイルベースシステムとの連携など、ユーザーのワークフローにあった連携オプションを予定しているという。


NDIによる配信イメージ

リアルタイム字幕ソリューションのコーナーでは、NHKが技術協力するAIによる音声認識技術を披露。多言語字幕サービスでは、情報通信研究機構（NICT）の技術をカスタマイズしたエンジンにより、英語と中国語、韓国語に自動翻訳してみせた。また、放送に対してネット配信が遅れることを利用して、ネット配信で音声に字幕を同期して表示させる技術も実演した。

データ放送設備をクラウドで運用するサービスは、設備の省スペース化や運用効率の向上が可能になる。第5世代移動通信システム（5G）時代に向け、5Gを補完する広帯域映像伝送システムも参考出展した。

カメラソリューションコーナーでは、浜松町にあるサイバーエージェントのスタジオと公衆網で接続し、リモートライブ配信してみせた。米NewTekのNDI−HXプロトコルに対応したパナソニックのカメラを浜松町に設置し、内覧会会場からスイッチングしながら配信。eスポーツをイメージして、スマートフォンのゲームをプレイする様子を実況した。

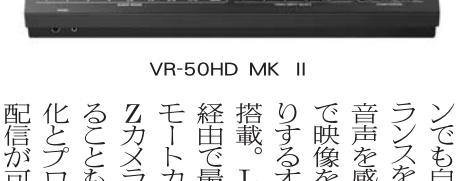
ローランド
イベント用AVミキサー
1台で映像演出から配信まで

ローランドは、中小規模のイベントでの映像演出から音声調整、収録、ライブ配信までを1台で可能なマルチフォーマットAVミキサーの新モデル「VR−50HD MK Ⅱ」を9月に発売する。

中小規模のイベント機材として利用されている「VR−50HD」ユーザーの要望をもとに、現場で使いやすい操作性とライブ配信で求められる高音質、音声調整や映像の切り替えの自動化などを実現した。

新たに、モニター／収録／ライブ配信など用途に合わせた映像を出力するAUX専用ボタンを装備したほか、イベントや配信の本番で直感的に操作できるインタフェース、高品質のオーディオ・プリアンプとADコンバーターによるクリアな音質を実現した。

ワンマンオペレーションでも自動で音声バランスを調整したり、音声を感知して自動で映像を切り替えたりするオート機能を搭載。LANポート経由で最大6台のリモートカメラ（PTZカメラ）を制御することもでき、省力化とプロ品質の演出配信が可能。


VR-50HD MK Ⅱ

グラスバレー
8K編集ターンキーを発売
4Kプレビューしながら8K編集

グラスバレーは、8K resは、HDWS 4Kシリーズのハードウエアに、8K編集と8Kファイルエクスポート機能を持つ「EDIUS Workgroup 9」の特別ライセンスを搭載したターンキーシステム。EDIUS Workg roup 9で実現するビデオアウトコンバージョン機能によって8K編集映像を4Kモニターでプレビューすることが可能となり、8K映像編集環境の構築時に初期コストを抑えながら導入することができる。

HDWS 8K EliteはHDWS 8K Expressの上位機種と位置づける。同機はSDI出力を装備し、8K編集映像を8Kネイティブ解像度のまま8Kモニターでプレビューすることが可能。

ビデオアウトコンバージョン機能は、従来のHDWS 4Kシリーズ、REXCEEDシリーズにも搭載する。4K編集映像をHDモニターでプレビューすることにより、既存のHD環境で快適に4K編集できるため、追加投資負担を抑えられるという。

Ginza Sakuraya
TOTAL AV SOLUTION
ハイクオリティな映像表現に必要な機器のすべてを、
トータルにサポートできる豊富なラインナップと技術力。
それが、プロフェッショナルたちに選ばれる理由。
Capturing 撮る
Editing つなぐ
▶▶ 銀座サクラヤのCESコンセプト
Showing 見せる


映像・音響機器のレンタル・販売　株式会社 銀座サクラヤ
http://www.ginzasakuraya.com

米国の措置で独自路線へ

四面楚歌のファーウェイ

米中の経済摩擦とは別に、中国のファーウェイ（華為技研）への米国の措置が表面化している。米国が一種の禁輸措置を講じ、多くの企業がこれに従っている。一方のファーウェイは、米国の技術がなくても独自に開発可能としている。今回案件は、技術の流れを観察する絶好の機会となった。国際政治や安全保障ではなく、純粋に技術交流の観点から、誰が優位に立っているかを分析する。

（杉沼浩司）

★誰の技術か

米国政府が下したファーウェイへの「禁輸」措置により、ファーウェイは多くの技術を使えなくなっている。ファーウェイは「自社開発可能」としており、新聞報道などでは「高い技術力を持つ」とされている。まず、この点について考察したい。

半導体技術を見てみよう。同社のスマートフォンには自社製の半導体が搭載されている。4月2日付の日本経済新聞では、線幅7ナノメートルで製造された半導体を搭載していることから、「設計能力はトップ」とした。

この分析には異議を唱えたい。製造と設計は別問題である。現在の半導体は、プログラミング言語のような高級言語で動作を定義する。それをシリコンコンパイラ（変換プログラム）に掛け、製造先の技術に合わせる。つまり設計段階では、製造のことを考慮する必要は全くないのである。製造は台湾のTSMCが手掛ける。7ナノメートルで製造できるのは、TSMCの技術力であり、設計したハイシリコン（ファーウェイの子会社）の技術力ではない。

そもそも半導体を眺めた程度の分析では、設計能力は分からない。動作効率や消費電力など多くの観点があるが、新聞記事からはそれらを分析した様子は見られない。

★アンドロイド代替

次に、ソフトウエアを見よう。ファーウェイのスマートフォンにはアンドロイドOSが搭載されているが、開発元のグーグルは新しいバージョンの出荷を停止した。これに対して、ファーウェイは「独自でOSの開発は可能」としている。

独自OSの開発に疑問もわくが、それは可能であろう。アンドロイドの元となっているリナックスは、ソースコードが公開されているオープンソースであり、誰でも利用できる。

ただし、開発することと「使えるOSであること」は全く意味が違う。例えば、グーグルがアンドロイドの初期のバージョンを搭載したグーグルブランドの電話機などは、非常に使い勝手が悪かった。「動作するOS」と「使えるOS」は全く異なる。

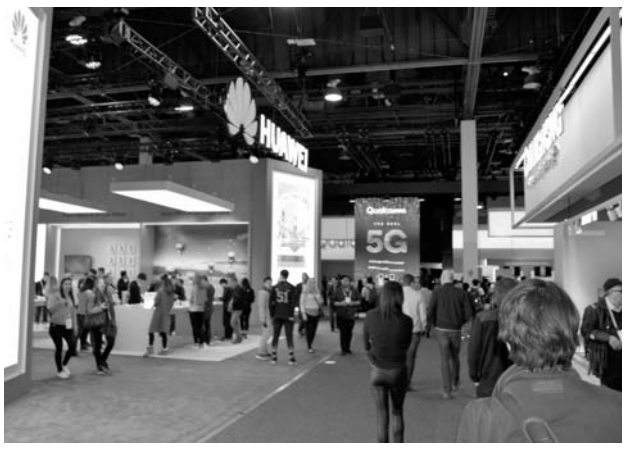
また、オープンソースであるからといって、自由に使えるものではない。著作権的には自由に使用できるが、特許権は別なのである。オープンソースのOSにも、多くの知財権が絡んでいる。特許権保持者が、自身の権利を主張した場合、これを拒否するのは無理であろう。

国際標準にかかわる特許は、RAND条項により、誰にでも同じ条件でライセンスする必要がある。しかし、多くのオープンソースは、国際標準と関係ない。RAND条項が適用されないため、特許権者は自由に振る舞える。

このような状況でOSを独自開発するには、多くの難点がある。加えて「使いやすいOS」であるかは、技術だけのレベルではない部分も効いてくる。「使い物になるOS」を作るためには、何年もの時間が必要だ。既に、使いやすいOSが存在する市場に「使いにくいOS」を搭載したスマートフォンを出しても見向きもされないだろう。

★コアが使えない

ファーウェイへの企業の対応で、世間を驚かせたのは、英ARMが技術供与を停止したことだ。



5Gのほとんどを押さえたクアルコムに立ち塞がるファーウェイ（CES2019より）

真価が問われる自主技術力

「使えるOS」開発には疑問符

組み込み用途では80%のシェアを持つといわれるARM社のCPUであり、影響は大きい。最近は単一のCPUではなく、CPUの中核部をコアと呼び、これを複数個入れている。

しかも、8個程度のコアを使うのはCPUとしてアプリやOSを動かすためであり、ほかの回路内に部品としてコアが使われることがある。アプリケーション開発者の目に入らない部分で、十数個のコアが使用されている場合もある。こちらのコアは、半導体設計者がプログラムも用意している。これらのコアに関して、新たな実装ができないという。これは大問題だ。

もちろん、世の中にはオープンソースのCPUもある。代表的なものがRISC―Vだ。しかし、これも知財権は米国の大学や企業が押さえている。禁輸措置下では知財権的に利用ができないだろう。

後から賠償請求に応じる覚悟があれば、先に使ってしまうという手もある。

零式艦上戦闘機（零戦）は、可変ピッチプロペラ（恒速プロペラ）の採用で知られるが、技術は米国のものだった。プロペラを製造した住友金属工業は、戦時中はライセンス料を支払いする手段がなかったが、終戦後生産量を申告しライセンス料の請求を求めている。現在は、戦争状態ではないため、支払いの意図は示しやすい。どのようなやり取りがなされるか、興味深い。

★決定打はツール

一連のやり取りを見て、ファーウェイを最も苦しめることになるとみられるのが、半導体設計ツールに関する取引の停止である。米シノプシス社のシリコンコンパイラの更新がなされない。

前出のとおり、半導体設計時には高級言語で記述する。それを工場に持ち込むデータに翻訳するのがシリコンコンパイラだ。更新停止は、コンパイラ本体だけでなく、ライブラリーなどの周辺情報も含まれると考えてよいだろう。



ファーウェイはCES2018の基調講演で自社チップの優位性を示していた

データを受け入れる側（例えば、台湾のTSMC）は、受け入れ可能なライブラリーのバージョンを指定する。これがずれてしまえば、生産を依頼できない。

ファーウェイが、半導体を「生産」しているといっても、それは回路を定義しているという意味であり、本当の製造は台湾で実施されている。製造側が受け入れられるデータを作れないとなると、どうにもならない。

会社の経営者レベルでは、代替品や代替技術があるように見えたのかもしれない。しかし、代替品が「使い物になる」かどうかは、経営者が理解できるところではない。

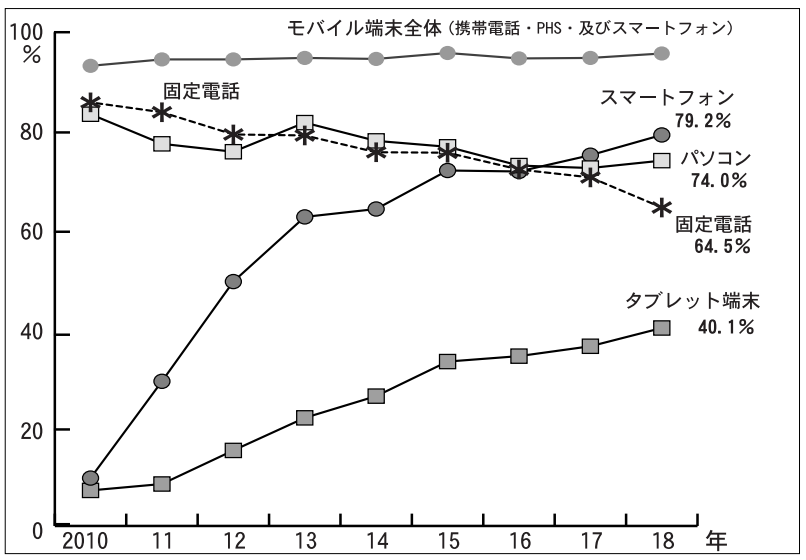
また、代替技術があるとカタログレベルで見つかっても、それが現実に利用可能であるかは簡単には分からない。そしてライセンス契約や納入物品と異なり、気づかぬところに米国製ツールがあった。

今回の案件は、多くの技術が米国に連なっていることを改めて実感させた。同時に、それらを離れての「自主開発」が、絵空事に等しいという現実を突きつけている。たとえオープンソースのソフトや技術情報を使っても、ビジネスが成立するように使うのは、大変に難しいことが確認された。

半導体設計ツールの取引停止が痛手



主な情報通信機器の保有状況（世帯）（2010年～18年）



総務省が「平成30年通信利用動向調査」

スマホ保有世帯79.2％に

総務省は、2018年9月末時点の世帯および企業における、情報通信サービスの利用状況などについて調査した「平成30年（2018年）通信利用動向調査」の結果をまとめた。それによると、世帯におけるスマートフォン（スマホ）の保有割合が約8割になった。また、個人・企業において、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）などを活用している割合が上昇したことなどが分かった。

個人・企業 SNSの活用が上昇

【インターネットの利用動向（個人）】

インターネット利用者の割合はほぼ横ばい。13―59歳の年齢層でインターネット利用が9割を超えている。個人のインターネット利用機器（複数回答）に関しては、スマホ（59・5％）がPC（48・2％）を上回っている。

年齢別にインターネットの利用をスマホとPCで比較すると、13―19歳がスマホ76・6％／PC41・3％、20―29歳がスマホ88・7％／PC64・2％、30―39歳がスマホ87・5％／PC63・3％、40―49歳がスマホ82・9％／PC64・7％、50―59歳がスマホ72・6％／PC62・9％、60―69歳がスマホ46・4％／PC47・0％、70―79歳がスマホ19・7％／29・4％となっている。

【情報通信機器の普及状況】

主な情報通信機器の保有状況（世帯）を見ると、スマホを保有している世帯の割合が79・2％で約8割まで増加しており、固定電話（64・5％）、PC（74・0％）を保有している世帯の割合を上回っている。

個人でのスマホの保有状況は増加傾向（16年56・8％、17年60・9％、18年64・7％）にある一方、携帯電話・PHS（スマホを除く）の保有状況は減少傾向（16年33・6％、17年29・3％、18年26・3％）にある。

【SNSなどの利用動向】

SNSなどを利用している企業（17年28・9％、18年36・7％）・個人（17年54・7％、18年60・0％）の割合はともに上昇している。利用目的の特徴としては、企業では「会社案内、人材募集」の割合が、個人では「知りたいことについて情報を探すため」の割合がそれぞれ上昇している。

【クラウドサービスの利用状況】

クラウドサービスを利用している企業の割合は上昇傾向が続き、今回調査対象の約6割となっている。利用目的をみると、「営業支援」や「生産管理」などの高度な利用は低水準にとどまる。

効果についてみると、「非常に効果があった」（28・9％）または「ある程度効果があった」（54・3％）と回答した企業が利用企業の8割を超えている

【インターネット利用上の不安（個人）】

12歳以上のインターネット利用者の70・7％がインターネット利用時に何らかの不安を感じており、前回と比較し3・9ポイント上昇した。年代別では、30代から70代の年齢層で不安を感じる割合が高い。

不安の具体的な内容は、「個人情報が外部に漏れていないか」が84・6％となり、個人情報に対する懸念が相当に高い。特に「電子決済の信頼性」（37・8％）が4・6ポイント上昇している。

【AI・IoTなどのシステム・サービスの導入状況（企業）】

デジタルデータの収集・解析などのため、IoTやAIのシステム・サービスを「導入している」（12・1％）または「導入予定」（8・5％）の企業を含めると2割を超えている。

導入しているシステムやサービスを構成する機器をみると、「監視カメラ」が41・1％と最も高く、次いで「センサー（温度センサー、圧力センサーなど）」（28・6％）となっている。

導入の効果としては、「非常に効果があった」（17・5％）または「ある程度効果があった」（55・8％）と回答した企業は73・3％だった。

淀川区と「連携協力」協定
魅力発信で地域活性化
J：COM大阪セントラル

ジェイコムウエスト大阪セントラル局（J：COM大阪セントラル／大阪市中央区）は3日、サービスエリアである大阪市淀川区と「連携協力に関する協定」を締結した。この協定は、地域の行政とJ：COM大阪セントラルが相互に連携することで、淀川区の魅力を広く発信し、内外の交流を推進するとともに、地域の活性化を図ることを目的としている。

淀川区は、商・工業活動ともに盛んで、現在もさまざまな都市環境の整備を進めているとともに、高齢化社会に備えた高齢者福祉施設も順次建設されている。

今回の協定により、行政情報および地域情報をJ：COMのコミュニティチャンネル「J：COMチャンネル」や、地域のイベントを通じて発信し、淀川区の魅力を伝えていく。

●訂正　6月10日号15面の「レイヤードグループ」の記事と見出しで「Infocomm」とあるのは、「InfoComm」の誤りでした。

SIMPLY LIVE ▶ ViBoxシリーズ、ビデオサーバーシステム

Vibox シリーズは 3 種類のハードウェアがあり、映像 / 音声処理を行うバックエンドソフトウェアの上に、異なった機能を持つ 4 種のアプリケーションソフトによるシステムです。

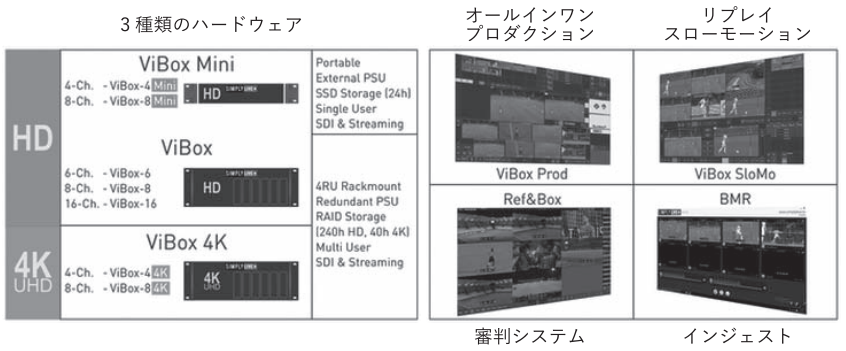
1．**Vibox** オールインワン･プロダクション システム
4/8/16 入力の同時収録、ビデオスイッチング、オーディオミキシング、ダウンストリームキーヤ、撮って出し再生、プレイリスト再生機能

2．**ViBox SloMo** リプレイ／スローモーション システム
4/6 入力の撮って出しスロー専用システム

3．**Ref&Box** ビデオ判定／審判システム
4/8/16 入力の同時収録／再生、選択したアングルのピンチアンドズーム機能を持った審判システム

4．**BMR8** インジェストサーバー システム
8 入力のベースバンド映像を収録し、ファイル化と同時にストリーミングする機能

ViBox SloMo 及び BMR8 には 4K 対応版もあります。





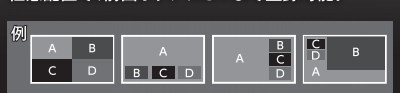
武蔵エスアイ株式会社
〒161-0033　東京都新宿区下落合 3-21-1 NK フジビル 3F
TEL：03-5996-7455　FAX：03-5982-4784
http://www.musashi-si.co.jp

設計から製造までメイド･イン･Japanの信頼品質
IMAGENICS

HDMI「4K映像」を
自在に4画面レイアウト



■マルチビューのレイアウトパターンは、任意サイズ／任意配置で、前面ボタンに8つまで登録可能。
例



■登録したパターンは、ワンタッチで呼び出し可能。
■入力切替やパターン切替は、黒画面を挟む事なく切替可能。
■入力音声レベルの調整が可能。
■出力音声の選択、または、ミキシングが可能。

イメージニクス株式会社
東京営業所 TEL.03-3464-1401 / 大阪営業所 TEL.06-6354-9599 / 福岡営業所 TEL.092-483-4011　http://www.imagenics.co.jp/

YOUR STORY OUR MUSIC

AUDIO NETWORK



ご詳細はこちらを
スキャンして下さい



オーディオネットワークの
音源は放送コンテンツを
グローバルに一括カバー。







15万曲のオリジナル音源で、
より彩り豊かな作品に。

当社音源は著作物のため、各国での著作権管理団体
への音源利用報告をお願い致します。

London New York Tokyo Los Angeles Toronto
Amsterdam Munich Paris Lisbon Manchester
Madrid Maplestead Milan Dubai Warsaw Sydney

ウェブサイト jp.audionetwork.com
email infojp@audionetwork.com
電話 03 4580 1437

ケーブルコンベンション2019／ケーブル技術ショー

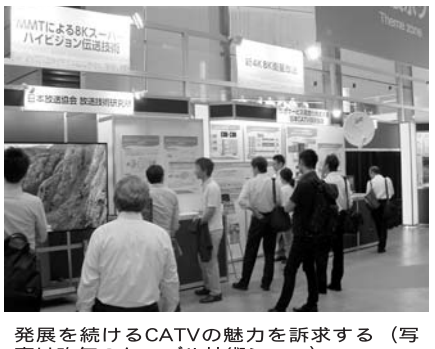
日本ケーブルテレビ連盟、日本CATV技術協会、衛星放送協会の3団体は、CATV業界の総合コンベンション「ケーブルコンベンション2019」および、関連イベント「ケーブル技術ショー2019」を6月19、20日の2日間、東京都千代田区の東京国際フォーラムで開催する。放送・映像サービスやインターネット接続、通信サービスなどを提供する「地域の総合情報通信メディア」として、発展を続けるCATVの魅力を訴求するとともに、業界の最新動向を探る場となる。

◆ケーブルコンベンション2019　テーマは『Beyond the Value～その価値を超えて、ここから生み出そう～』。講演や各種セミナーを通じて、CATVならではの〝価値〟を見つめ直し、どうすればもっと加入者の生活を豊かにし、新たな〝価値〟を創造できるかを考察する。

初日には、開会式（午前11時30分開始）に続き、「ケーブルテレビ功労者表彰 贈賞式」「ベストプロモーション大賞 贈賞式」を開く。また午後5時30分から、業界関係者の情報・知見を交換・共有するための情報交換会（有料）を設けている。

【詳細】www.catv-conv.jp

19.20日／東京国際フォーラム
次世代CATVの姿を発信
最先端技術・製品が集結



発展を続けるCATVの魅力を訴求する（写真は昨年のケーブル技術ショー）

◆ケーブル技術ショー　最先端技術のセミナーを用意している。

「ケーブル技術の新時代、幕開け The New Era Cable Technology Begins! ～人をつなぐ、地域をつなぐ、豊かな社会づくりを目指して～」をテーマに開催。新時代の実現に向けた機運醸成を図るとともに、CATV技術の一歩先行く姿を発信する。出展各企業の新製品や新ソリューション技術などの展示、セミナーを用意。

技術セミナーは、15社が20セミナーで最新技術について解説する。主催者セミナーでは、総務省によるIoT機器のサイバー攻撃からの注意喚起の取り組み「NOTICE」システムの説明、米国におけるCATV技術の動向と業界の将来と題して、米国のCATV技術者団体のSCTE（Society of Cable Telecommunications Engineers）による講演を実施する。

開催時間は、午前9時30分―午後6時（20日は午後5時まで）。入場無料。

【詳細】www.catv-f.com

ケーブル技術ショー2019／出展者

アイテム	データコントロルズ／IMAGICA Lab.／Espial Group
アイビーソリューション／丹南ケーブルテレビ	データブロード
アイベックステクノロジー	テクニカラージャパン
アストロデザイン	テクノハウス
アビッドテクノロジー	東亜ソフトウェア
APRESIA Systems	東京シー・エム・シー
アンリツ	東京電機産業
伊藤忠ケーブルシステム	東陽テクニカ
伊藤忠ケーブルシステム／アイテック阪急阪神	東洋紡エンジニアリング
イノコス	トラフィック・シム
イメージニクス	日興通信
インフォメーションタスクフォース	日本アンテナ
VIAVIソリューションズ	日本ソフト開発
SCSK	日本通信機
ＮＥＣネッツエスアイ	日本デジタル配信
NTTアドバンステクノロジ	ニューメディア
FXC	ネクストキャディックス
江守情報	ネットセーブ／EXFO JAPAN
かんでんエンジニアリング	ノキアソリューションズ&ネットワークス
関電工	Harmonic Japan
北村製作所	パナソニック システムソリューションズ ジャパン
共栄システム産業	VeEX/メインテクノロジー／イスミ設備設計
共信コミュニケーションズ	ＢＫｔｅｌパシフィック・リム
クボテック	BBIX
クロスイメージング／気象サービス	ビデオトロン
KDDI	ファーウェイ・ジャパン（華為技術日本）
コペックジャパン	フジクラ
サテライトコミュニケーションズネットワーク	富士通ネットワークソリューションズ
サン電子	ブラックマジックデザイン
ＧＳユアサ	プラットイーズ
ジャパンケーブルキャスト	フリービット
シンクレイヤ	古河電気工業
スターデジタル通信	ブレーンズ・システム
住友電気工業	朋栄
ソニー／ソニービジネスソリューション	マウスコンピューター
ソニーペイメントサービス	マスプロ電工
ソリッド	三菱電機
ダイコー通産	ミハル通信
大電	武蔵エスアイ
智同日本	MEDIAEDGE
THK	メディアキャスト
DTSインサイト	リーダー電子
ティーブイエスネクスト	ロジネットサービス
ＤＸアンテナ	

高度BS対応システム展示


高度BSヘッドエンド装置MGSRシリーズ

ミハル通信

ミハル通信は、高機能で冗長性を備えた4K＋Upソリューションを提案。高度BS対応ヘッドエンド装置MGSRシリーズの4K HEVCエンコーダー、SI／MUX QAM変調器、高度ケーブル自主放送用トラモジ等による4K自主放送システム、高度BS再放送システムを展示する。

高度BSヘッドエンド装置MGSRシリーズは、BS―IF受信部が2系統あり、RF冗長を実現、無瞬断で切り替えができる。また、3・2GHz対応機器、光ファイバー増幅器、ONU、RFアナライザーなど最新ラインアップ、ヘッドエンドから伝送路までのトータルシステムの監視ソリューションも披露する。

ビデオトロン

ビデオトロンは、12G対応2chカラースーパー「CK―70U」、12G対応マトリックススイッチャー「MTX―70U―1616」、12G対応フレームシンクロナイザー「FS―70U」の3機種を参考出展する。

4K制作設備が拡大しているなか、同社のVBUSモジュールシステムは、12G―SDI対応モデルラインアップを拡充してきた。これにより4KシステムをVBUSフレームで完結することが可能となった。

4K設備を構築する上で鍵となる12G―SDI製品を継続して取り組み、今後もさまざまな提案をしていくという。


12G対応16×16マトリックススイッチャー「MTX-70U-1616」



特集

ケーブルコンベンション2019 ケーブル技術ショー

地域色あるコンテンツ制作を支援

ソニー

ソニーは、業務効率や生産性を向上させながら、地域の独自色あふれるコンテンツ制作を支援する機器・ソリューションを訴求する。

番組送出ソリューションとしては、４Ｋ ＨＤＲの送出にも対応する「ＳＷＥＶ－Ｘ１００」を中心として、「ケーブル４Ｋ」の納入基準に準拠した４Ｋ ＸＡＶＣレコーダー「ＰＺＷ－４０００」を展示。

また、既存のＳＤＩケーブルではなく、ＩＰネットワークを活用して、遠隔地と局舎をネットワークで接続し、遠隔地も含めた一体制作が可能になる「ＩＰ Ｌｉｖｅプロダクションシステム」をデモする。


PZW-4000

共信コミュニケーションズ

「ＡＩ機能／コンテンツアーカイブ＆プレイアウト ＤａＡｉｐｓ」「４Ｋ編集ワークフロー」「ワンマンスタジオ」「Ｔａｌｌｙ＆Ｉｎｃｏｍｅシステム」「タッチ議会中継システム」を展示。


DaAIps

ＤａＡｉｐｓは、ＡＩを利用したコンテンツ管理システム。さまざまな映像データ登録、管理、ＡＩ解析（テロップ文字解析）、自動タグ付け機能を備え、コンテンツをフル活用するプラットフォームとして提案する。

「Ｔａｌｌｙ＆ＩｎｃｏｍシステムＩＰ」は、ｉＰａｄ／ｉＰｈｏｎｅアプリを活用し、ＩＰ網によって低遅延で送り返し、現場においてリアルタイムで確認可能なシステムを構築する。

「タッチ議会中継システム」は、パネル上の発言者の席をタッチするだけで、議場カメラの操作からスイッチング、氏名テロップ表示までを可能にする。

ジャパンケーブルキャスト

ジャパンケーブルキャスト（ＪＣＣ）は、「高度ケーブル自主放送（ＡＣＡＳ）」の配信イメージや運用方法の案内をはじめ、映像配信サービス「ＪＣ－ＨＩＴＳ ＩＰ」、ＣＡＴＶ事業者向け「４Ｋテレビ販売サービス」、「ＪＣ－Ｓｍａｒｔ×ハイブリッドキャスト Ｃｏｎｎｅｃｔ」、「ＩＰ告知システム」、ＣＡＴＶ専用の無料・自主総合編成チャンネル「チャンネル７００」、４Ｋ映像によるヒーリング効果や集中力の向上が期待できる新たな映像配信サービス「Ｎａｔｕｒａｌ Ｗｉｎｄｏｗ ｆｏｒ ＣＡＴＶ」などについて説明する。


IP告知システム

「ＪＣ－ＨＩＴＳ ＩＰ」は、ＩＰを活用したＣＡＴＶ事業者向け映像配信サービス。多チャンネルサービスだけでなく、ＮＴＴぷららの４ＫオリジナルチャンネルなどをＩＰで送る。

「ＩＰ告知システム」は、現在北海道５町村に導入を進めている、ＩＰ告知システムを披露する。ＪＣ－ｄａｔａクラウドを活用し、地域の安心・安全・防犯・防災情報と日々の生活情報を提供することで、地域の住民サービスを向上させる。

サテライトコミュニケーションズネットワーク

サテライトコミュニケーションズネットワーク（ＳＣＮ）は、コミュニティチャンネルを支援する新サービスを展示する。

「ネット同時放送」は、コミュニティチャンネルの放送をインターネット上で24時間３６５日同時配信する。いつでもどこでも視聴でき、災害時における情報伝達手段の強化となる。

「ＡＩ音声読上げサービス」は、ＡＩを駆使してテキストを音声に変換。高い変換精度と自然な音声が特徴で、アナウンサーや制作現場の労力を軽減する。

「コミュニティチャンネル クラウドＡＳＰサービス」は、コミュニティチャンネルの制作・管理・送出までワンストップで提供する。クラウドによりこれまで懸案となってきた設備負担の軽減ができる。

「マルチ画面ソリューション」は、複数の映像や情報を１画面上に表示。災害時にも定点カメラの活用で迅速な情報伝達をサポートする。河川カメラ映像や河川水位などを分かりやすく、切迫感のある情報提供により住民自らの行動に結びつく。

マウスコンピューター


MousePro W995

マウスコンピューターは、最新グラフィックス搭載のハイスペックＰＣをはじめとした、動画編集や制作に適したＰＣを展示する。

主な展示製品は、８Ｋ４Ｋ映像制作・編集に対応した高性能ワークステーション「ＭｏｕｓｅＰｒｏ Ｗ９００シリーズ」、映像編集に最適な15・6型モバイルワークステーション「ＭｏｕｓｅＰｒｏ Ｎ Ｂ９シリーズ」、ｉｉｙａｍａディスプレーのラインアップなど。

ＭｏｕｓｅＰｒｏ Ｗ９００シリーズは、インテルＸｅｏｎスケーラブル・プロセッサー×２基対応、３ＤＣＡＤ／ＣＧ・ＶＲ編集・ノンリニア編集に最適なタワータイプワークステーション。全モデルでＢＴＯに対応し、ＣＰＵ、メモリー、ドライブなど多彩なカスタマイズができる。

かまくらNOW! MIHARU

4K 自主放送システム
～コミチャンの4K化を実現～
MGSRシリーズ
4K HEVC エンコーダー
2K HEVC エンコーダー

高度 BS 再放送システム
～受信点を無瞬断で切替、冗長も実現～
高度BS トラモジユニット
高度BS 高性能 シグナルプロセッサー

監視システム
～4Kヘッドエンドの出力信号から FTTHシステムまで監視～
高度BS対応CATV監視装置
FTTH監視装置

高機能 + 冗長性
4K +UP ソリューション
4K 自主放送
高度BS 再放送
監視 システム
RF アナライザー
3.2GHz 対応機器
光ファイバー 増幅器

RF アナライザー
～新4K8K衛星放送から国内 すべての信号を測定可能～

3.2GHz 対応機器
～次世代FTTHネットワークを実現～
MOTSDシリーズ
3224MHz外部変調型光送信器

光ファイバー増幅器
～4Uサイズに最大144光出力ポート実装～
マルチポート型光ファイバー増幅器

出展告知
ケーブルコンベンション関連イベント
ケーブル技術ショー Cable Tech Show 2019
会期 6月19日(水)～20日(木)
会場 東京国際フォーラム

三ハル通信株式会社
鎌倉本社 〒247-8538 神奈川県鎌倉市岩瀬1285 TEL 0467(44)9111(代)
東日本 中部 関西 中国 九州 西東北 信越 北陸 北関東 山陰 四国
https://www.miharu.co.jp

特集

ケーブルコンベンション2019 ケーブル技術ショー

幅広いニーズに対応可能な製品群

ブレーンズ・システム

NewTekのSDI／IPライブ・プロダクションシステム「TriCaster TC1」は、16の外部入力と4つのM／Eを含む、4K UHD 60p対応モデルが登場。

LANケーブルで手軽に中継が可能な「TriCaster Mini NDIセット」は、NDIカメラ「NDI PTZ−1」、コントローラー「PTZ Fly」を組み合わせた。

Skype for Business対応のライブ映像を放送用HD−SDI信号出力する装置「Talk Show」は、中継を容易にし、コストを削減した映像制作ソリューション。地上波局の報道番組でも中継に活用されている。

このほか、Software NDI対応の収録、追っかけ編集システム「Movie Recorder」、マルチビューイングソフトウエア「BirdDog Central PRO」、NDI HX対応カメラ「NDI PTZ−1用屋外ハウジングなどを出展する。



PTZ-1カメラ

クロスイメージング

クロスイメージングは、CATV局のコミュニティチャンネルやお天気専門チャンネルなどの、気象・防災コンテンツを放送するためのデジタル放送向けHD送出システム「MediaCommunity Station」を、コンテンツ配信元でもある気象サービスと共同で出展する。

地域に密着した気象・防災情報などの豊富なコンテンツを持ち、多様な画面を作画する機能を標準装備。外部映像との合成も可能。作画した画面、テロップ・広告を指定したスケジュールで切り替える機能により、無人運用を可能としている。24時間365日の保守体制や、自社開発のHD−SDIリアルタイム入出力ボードを用いることで、高速かつ安定したシステム稼働を実現し、既に30局以上の納入運用実績を誇る。



天気予報の画面

朋栄

朋栄は、4K 1M／E ビデオスイッチャー「HVS−1200」や、ビデオサーバー／テロップ送出機として利用できる「MBP−1000VS−12G」、HDR／広色域対応のマルチチャネルシグナルプロセッサー「FA−9600」、Pixelot社の自動スポーツ映像制作ソリューション「Pixellot Standard」など、CATV業界の幅広いニーズに対応可能な製品群を出展する。

HVS−1200は、全入力にフレームシンクロナイザーを搭載し、4K時に10入力を実現。非同期信号の入力にも対応する。出力は8出力＋2HDMI出力を搭載。2系統のマルチビューワーを搭載し、それぞれ最大16分割の表示ができる。


MBP-1000VS-12G

MBP−1000VS−12Gは、記録用SSDと4K XAVCハードウエアコーデックを4基搭載したビデオサーバー。コーデック搭載数に応じた同時収録、または同時送出ができる。各社番組自動送出システムとの連携も可能。

IMAGICA Lab.／エスピアル

IMAGICA Lab.とエスピアルは共同でブースを構える。

IMAGICA Lab.は、自社開発のクラウドファーストのデータ管理・共有ソリューション「TASKEE」と連動した形での「クラウド編集」への取り組みについて説明する。映像コンテンツの管理・保管という役割を果たしつつ、流通の活性化に貢献するためのソリューションとなっている。

エスピアルは「エレベート・クラウド」を出展する。これは、迅速な市場投入、収益を生む有料TVサービス、信頼性を提供するSaaS型ターンキー・AWSクラウドホスティング・ビデオ配信プラットフォーム。北米で30社以上のCATV事業者が採用している。

新たなIPビデオサービスと幅広いデバイスにわたる高いマルチスクリーン・ユーザー体験を短期間で運用できる。高度な行動分析機能、柔軟なプロモーション管理の提供により、収益の向上が図られるという。

アストロデザイン

アストロデザインは、映像などのデータをネットワークで伝送するための各種製品を展示。8Kの超低遅延IP伝送装置や館内共聴システム、新製品のTSマルチプレクサーに加えて、人が身に着けるウェアラブルカメラ「Body Camera」を実演する。


Body Camera

Body Cameraは、遠隔地の映像を4G LTE回線を使って転送できるウェアラブルカメラ。GPSおよびジオタグ機能も搭載している。

ケーブルネットワークの
スペシャリスト
SYNCLAYER
MAKING POTENTIAL A REALITY
シンクレイヤ株式会社
http://www.synclayer.co.jp/
本社 〒460-0012 名古屋市中区千代田2-21-18
TEL（052）242-7871（代） FAX（052）238-5655

ケーブルテレビの
コミュニティチャンネルを支援する新サービス
コミュニティチャンネル
クラウドASPサービス
ネット同時放送
AI音声読み上げ
ケーブルコンベンション関連イベント
ケーブル技術ショー
Cable Tech Show 2019
2019年6月19日（水）・20日（木）
東京国際フォーラム
ホールE/ブースNo.C-14
SCN Satellite Communications Network
株式会社サテライトコミュニケーションズネットワーク
http://www.sc-net.ne.jp
【本　社】〒683-0801　鳥取県米子市新開2-1-7
0859-32-6103　0859-22-8160
info@sc-net.ne.jp

広告
CABLECAST
私たちのサービスは
地域と社会を元気にします
ジャパンケーブルキャストは、たゆまぬチャレンジと
イノベーションを通じて、笑顔で彩り豊かな地域社会づくりに貢献し、
地域・お客様と共に持続的成長を達成します。
JC-data
チャンネル700
JC-HITS IP
IP告知端末
JC-HITS
IP放送サービス
防災・減災・告知システム
データ放送サービス
放送プラットフォームサービス
自主総合編成チャンネル
お問い合わせ先　営業本部 03-6910-2903
東京都千代田区九段南一丁目6番17号　千代田会館8階
TEL：03-6910-2900　FAX：03-3556-4232
Mail：public@cablecast.co.jp　URL：http://www.cablecast.co.jp
ジャパンケーブルキャスト株式会社

特集
ケーブルコンベンション2019 ケーブル技術ショー

次世代に向けた新開発製品を披露

シンクレイヤ

シンクレイヤは、最新の「4K8Kビデオ関連ソリューション」や「ハンイスピードデータソリューション」をはじめ、次世代に向けた新たな開発製品を披露する。

4K8Kビデオ関連ソリューションとしては、新開発4K対応ハイブリッドSTBや4K8K対応高度BSトランスモジュレーター、新開発IP放送バイパス配信システムなどをそろえる。

「PONソリューション」は、新開発G-PON（OAOC）などを出展する。


SOR-807R

イメージニクス

イメージニクスは、HDMIからSDIまで幅広い信号に対応した各種機器を展示する。

4K HDMI信号対応スキャンコンバーター「HEV-U41」、同軸1本で4K HDMI信号を伝送するIMG. Link送受信器「CRO-UIL2T/CRO-UIL2R」、リファレンス入力に対応した小型・安価な3G/HD/SD-SDI用スキャンコンバーター「CRO-PS12A」など幅広い機器をそろえる。12G-SDI関連機器も展示予定。

HEV-U41は、4系統の4K HDMI信号をマルチビュー合成して4K HDMI信号へ変換出力することが可能な信号変換器。すべての入力には4K対応アップダウンスキャンコンバーター内蔵。これらのレイアウト切り替えの際も黒画面を挟むことなくシームレスに切り替えが可能。


HEV-U41

武蔵エスアイ

武蔵エスアイは、オールインワンプロダクションシステム「ViBox8」、ローコストタイプビデオサーバー「MVS-4K11」「MVS-1200」を出展する。

ViBox8は、6入力2出力のスイッチャー、キーヤ、リプレイサーバー機能を持った一体型中継制作システム。特にスポーツ中継やニュース制作においてリプレイ機能スロー再生などで威力を発揮する。

MVS-4K11は4K対応（1入力1出力）で、スポーツ中継およびニュース制作などで撮って出しスロー再生、ハイライト編集機能で収録しながら編集結果の再生やスロー再生が素早くできる。HDにも対応し、HDの場合は4入力2出力に切り替えて使用可能。

MVS-1200はHD1入力2出力で、撮って出しスロー／ハイライト編集ができる。


MVS-1200


LF965

リーダー電子

リーダー電子は、4K8K対応シグナルレベルメーター「LF965」、ポータブルウェーブフォームモニター「LV5350」を出展する。

LF965は、日本国内における高度広帯域衛星デジタル放送（4K/8K放送）、衛星デジタル放送（2K放送）、および地上波/CATVデジタル放送に対応したシグナルレベルメーター。レベル、BER、MER、C/N、コンスタレーション測定が可能。4型カラーTFT液晶を搭載し、携帯性に優れたコンパクト設計になっている。

ポータブルウェーブフォームモニター「LV5350」は、4K対応、SDI映像信号に特化した小型・省スペースなコンパクトタイプの波形モニター。

日本デジタル配信

日本デジタル配信（JDS）は、ACAS向け配信サービスやIP-VODサービスの「みるプラス」、ケーブルIDプラットフォームなどの最新状況を紹介する。

ACAS向け配信サービスは、4K放送やHD放送をHEVCでエンコードし、ACASを付けてケーブル事業者へ配信するもので、今年3月からサービスを開始した。

「みるプラス」は、画像中心の見易い形にリニューアルしたUIをお披露目。ケーブルIDプラットフォームは、導入事業者が順調に増え、転居支援、MVNO、自治体向けサービスなどでの活用が進んでいる。最近では、Huluなどの動画配信サービスにケーブルIDを活用する新たなソリューションが開発された。同コーナーではそうした取り組みを説明する。

住友電気工業

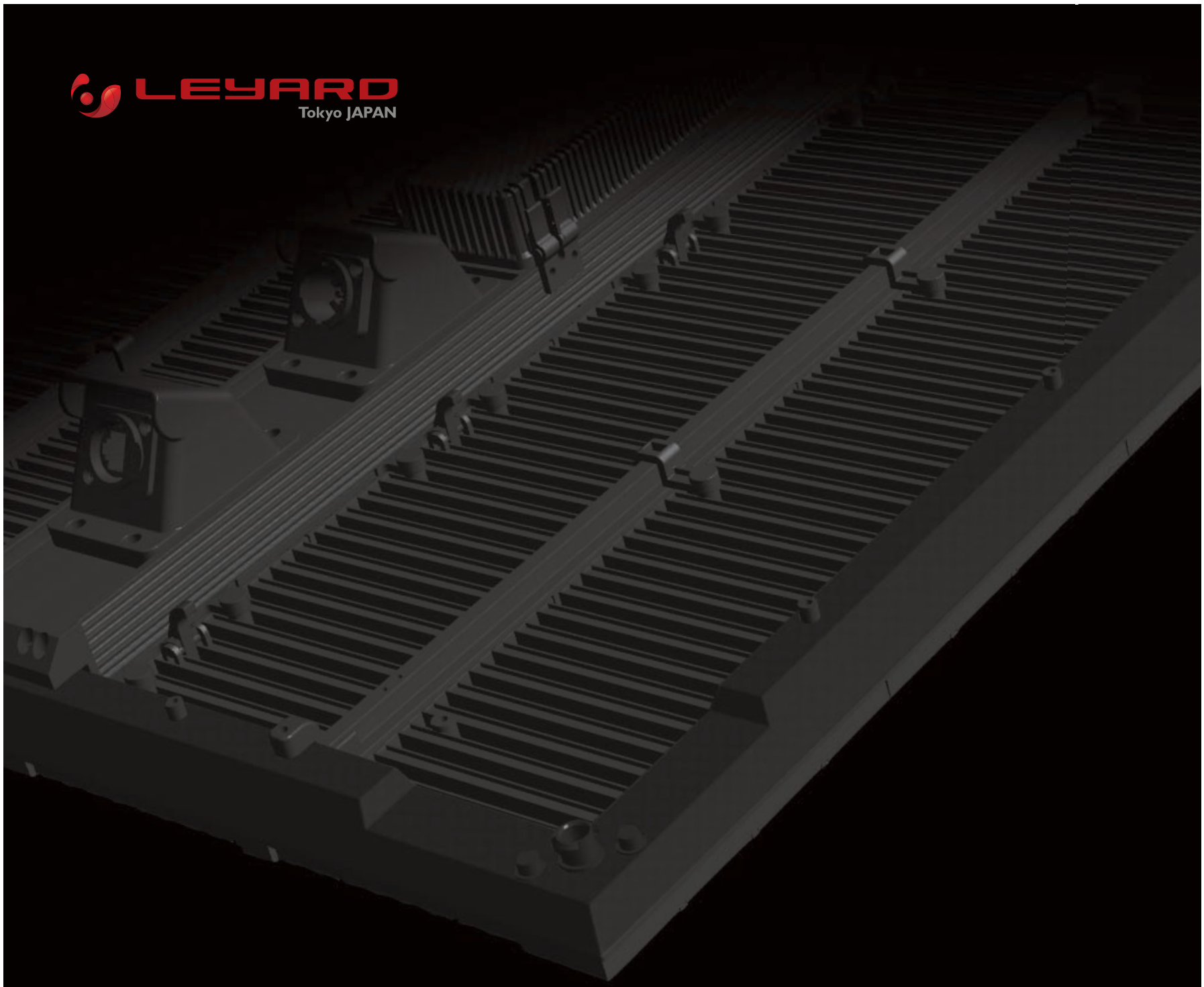
住友電気工業は、「Connect with Innovation」をテーマに、局内装置、伝送路機器、宅内端末をトータルで展示する。

主な出展製品は、高度化対応デジタルヘッドエンド「FLEXCITER」シリーズ、CATV事業者の4K多チャンネル放送を実現するヘッドエンド装置で、高度ケーブル自主放送対応装置、高度BSデジタルトランスモジュレーター、高度BS対応シグナルプロセッサなどがラインアップされている。

「FLEXCITER」シリーズは、CATV事業者の4K多チャンネル放送を実現するヘッドエンド装置で、高度ケーブル自主放送対応装置、BS-IP再放送装置（参考出展）、10G-EPONシステム、Remote OLT（R-OLT／参考出展）、運用支援サービス（ブロードネットマックス）。

主な出展製品は、高度化対応デジタルヘッドエンド「FLEXCITER」シリーズ、BS4K対応STB「ケーブルプラスSTB-2」、高度BS-IP再放送装置（参考出展）、10G-EPONシステム、Remote OLT（R-OLT／参考出展）、運用支援サービス（ブロードネットマックス）。





CLM10M3　10.4mmピッチ超高輝度SMD(高色調タイプ) / 重量12.5kg平米
CLM07M3　7.80mmピッチ超高輝度SMD(高色調タイプ) / 重量13kg平米
CLM06M3　6.90mmピッチ超高輝度SMD(高色調タイプ) / 重量13kg平米

共通仕様

最大輝度5,000nits（色温度6500ｋキャリブレーション) / フロント＆リアアクセス / 超低漏電新型専用電源ユニット（二重化対応)/ 10bit HDR対応 / 信号バックアップ回路 / 映像遅延0.5フレーム以下 / 120Hz・144Hz対応 / 改良型超強化カーボンフレーム（最大40m高対応）/ 専用スタッカブルフライトケース / 各種連結金具(フラット、カーブ) / 床置設置対応 / 消費電力300w以下 / AC100V～240v / IP65防水 / ノイトリックTOPシリーズコネクタ（電源、信号）/ 8Kコントローラ CLT Z8対応 / 光エクステンダー対応 / 発売 2019年6月より発売開始 / 販売価格 お問い合わせください。　※仕様は予告なく変更することがあります。

レイヤードジャパン株式会社　www.leyard.jp　salesjp@leyard.com

本社
〒171-0021
東京都豊島区西池袋5-17-12
創業新幹線ビル6F
TEL 03-6915-2768
FAX 03-6915-2798

大阪営業所
〒532-0003
大阪府大阪市淀川区宮原1-1-1
新大阪阪急ビル3F
TEL 06-7668-8399
FAX 06-7668-8301

カスタマーサービス・ロジスティック
〒164-0011
東京都中野区中央
3-12-3 1F
TEL 03-5937-0675
FAX 03-5937-0676

ショールーム
〒171-0021
東京都豊島区西池袋
5-17-12
創業新幹線ビル 5F

次世代 DISPLAY 最新動向160

さまざまな用途に柔軟な対応
進化続けるLEDディスプレー

フルカラーの大型LEDディスプレーが本格的に登場したのは199５年ごろからだが、当時は10ミリピッチ程度までが限界で、画質的に高精細化は難しいと考えられていた。そのため当時のLEDディスプレーは、街頭大型ビジョンやスタジアムなど屋外の大型ディスプレー用途が主力だった。開発から四半世紀の時を経てさまざまな技術が進化してきている。

（杉山平和・ディスプレー評論家）

LEDディスプレーが技術的に進化したのは、SMD（サーフェスマウントデバイス）型の登場である。LEDのワンパッケージにRGBの素子を収めるSMD型は、2000年以降に本格化する。それまでの砲弾型に比べて高精細なLEDディスプレーの実現を可能とした。防水対策などを施さず輝度を抑えた屋内専用のモデルも登場し、次第に高精細化が進んでいった。

現在では、SMD型の屋内モデルで1ミリピッチを切る、0コンマ台の超高精細ディスプレーが開発されている。これによりLEDディスプレーにおいても4K・8K映像対応を図っている。

COB（チップオンボード）型のLEDディスプレーは、SMD型と並行して開発が進められていたが、市場に本格的に登場したのは最近のことである。SMD型に比べて堅ろう性が高く、高精細化にも有利という点が特長だ。

COB型は、常に輸送を伴う大型映像のレンタル業界や人に触られる駅構内などオープンスペースのサイネージには最適という。ただし、現状ではSMDに比べてコスト高になるという課題がある。LEDパッケージに樹脂などで加工し、堅ろう性を高めたGOB（グルーオンボード）方式というモデルも市場に登場している。

●マイクロLED技術

ソニーが開発した「クリスタルLED」もCOB方式の一種とされている（ソニーでは独自技術と主張）。ソニーのクリスタルLEDは、微細なLEDをパッケージしており、将来的にはスマートフォン（スマホ）やテレビにも搭載が可能という「マイクロLED」技術を使っている。これによりコントラストが飛躍的に向上し、よりクリアで繊細な画面を実現している。

ソニーのクリスタルLEDは0・003平方ミリメートル（3平方ミクロン）のLEDを使用していることから、現時点でのマイクロLED技術の粋を集めた次世代ディスプレーともいわれている。

このサムスンとは別に映画用LEDスクリーンは、韓国のサムスングループが先行しており、韓国や香港、欧州などのデジタルシネマ映画館で採用され稼働している。今年度以降に日本国内でも、LEDシネマスクリーンの登場が期待されている。

●シネマスクリーン

映画用LEDスクリーンは、韓国のサムスングループが先行しており、韓国や香港、欧州などのデジタルシネマ映画館で採用され稼働している。今年度以降に日本国内でも、LEDシネマスクリーンの登場が期待されている。

このサムスンとは別に映画用LEDスクリーンの開発を進めているのが、中国の「木林森」だ。同社はLED素子メーカーで、ディスプレーメーカーを中心に市場投入されている。ミニLEDのLEDの大きさは100ミクロン（0・1平方ミリメートル）とされている。通常のSMD型のLEDチップの大きさは、パネルによっても異なるが、0・5平方ミリメートル以上はあるので、0・1ミリメートルでも十分に微細といえる。

ミニLEDは、マイクロLEDに少しでも近づきつつも低価格を重視した製品で、4イン1のLEDを使用するのが主力。ミニLEDもLEDが細かいため、通常のLEDディスプレーに比べて黒のしまりがよく、高コントラスト製品が実現可能である

第二次安倍政権下でのメディアの弱腰が目につく昨今であるが、その時流に棹（さお）さす作品がお目見えする。藤井道人監督の『新聞記者』（2019年、113分）である。最近では珍しく、骨っぽく、本年度のベストテン候補の1本と筆者は踏んでいる。ちょうど、昨年公開された沖縄戦における旧陸軍中野学校の暗躍を描く『沖縄スパイ戦史』（18年／三上智恵監督、大矢英代監督）と並ぶ存在だ。（中川洋吉・映画評論家）

「新聞記者」

権力と報道メディアの闇を突く傑作

実在記者の著書を原案に描く



「新聞記者」（主人公の吉岡㊧と杉原）
©2019『新聞記者』フィルムパートナーズ（以下同じ）

ここ数年、頻繁に話題となる首相官邸の干渉と事実隠し、忖度（そんたく）に走る官僚（上昇志向と保身）、それを取り上げないメディアの追及の弱さが顕著になっている。この風潮に対し敢然と立ち向かったのが、本作『新聞記者』である。

◆元ネタ

本作の下敷きは、「東京新聞」記者の望月衣塑子（もちづき・いそこ／中日新聞社東京本社社会部）による『新聞記者』（17年、角川書店）である。望月記者は、菅官房長官に対する40分、23回に及ぶ質問をし、首相側近による不適切な関与があったのではとする疑惑が浮上した「モリカケ（森友・加計）」問題を追及、別件では、女性フリージャーナリストが準強姦罪で訴えた、元TBSの政治部記者でワシントン支局長だった男性に対する不起訴処分について糺（ただ）した。

これが、菅官房長官の仕切る内閣官房との衝突の発端となる。望月は30代で2児の母であり、この国会質問で一躍、気骨のある記者と注目された。

◆政治絡み事件

過去にも佐藤栄作首相（在籍1964―72年）のころに似たような権力事件があった。沖縄返還に伴う、日米間での「核持ち込み密約」である。この事件は、2014年の第二次安倍政権時に、政府は密約の事実を認めた。現在も沖縄には、米軍の核が存在している。

昨今の女性ジャーナリスト性的暴行（正式罪名は準強姦罪）事件は、逮捕寸前に不起訴となった（現在、民事係争中）が、訴えられた元TBS記者は政権ベッタリの人物で、そのあたり、お上が助け舟を出した疑惑が強い。

◆本作のモデル

作品の主要人物は、「東都新聞」社会部記者の吉岡リカで、韓国人女優シム・ウンギョンが扮（ふん）する。彼女は、『サニー　永遠の仲間』（11年）、『新感染、ファイナル・エクスプレス』（16年）などに主演、理知的な容姿と真っ当さを求める新聞記者役が実に感じなのだ。

対するもう1人の男性主人公は、松坂桃李が演じる内閣情報調査室（以下、内調）員の杉原拓海であり、2人は仕事の面では敵対関係にある。

吉岡の勤務する社会部にタレコミがもたらされる。目が黒く塗られた羊のマークが表紙に印刷された書類である。中身は、近々設置が予定される大学に関するもので、いまだに真相がはっきりしない「モリカケ」問題をモデルにしていることは、一目瞭然（りょうぜん）である。

さらに、性的暴行事件で、被害女性の顔出し記者会見が同じ時期に重なる。2つの事件に直接かかわる正義感の強い社会部の吉岡は早速動き出す。

そして、暴行事件の裁判を傍聴し、その扱いが小さすぎると直属の上司、陣野和正（演じる北村有起哉は文学座の名優北村和夫の息子で、デビュー当時は演技に自信があったのか、ひどくクサイ印象を受けたが、本作ではひと皮むけ、なかなかの大人の芝居を見せる）に直談判。吉岡の直情径行の一面をのぞかせる。

彼女の役の設定は、父親がフリージャーナリストとして滞米し、母親が韓国人とされ、父親は日本政府関係の不正融資をスクープした。それが誤報とされ、周囲の批判を浴び自殺する。そして娘は事の真相を知るために帰国し、新聞社に入社する。彼女には権力犯罪と対峙する体質が本来的に身に備わっている。



吉岡



杉原

◆杉原の立場

内調勤務の杉原は、普通ならば吉岡と巡り会うはずのない人間である。しかし、「医療系大学の新設」に関するファクス以来、2人のコンタクトが生まれる。相手の存在は知りながらも、顔を合わせず事件の真相に迫り始める。

吉岡は匿名のファクスが内調から送られたことから、早速、内調から当たり始める。その相手が、官邸の大学新設問題で、被害女性の顔出し記者会見が同じ時期に重なる。2つの事件に直接かかわる正義感の強い社会部の吉岡は早速動き出す。

そして、暴行事件の裁判を傍聴し、その扱いが小さすぎると直属の上司、陣野和正（演じる北村有起哉は文学座の名優北村和夫の息子で、デビュー当時は演技に自信があったのか、ひどくクサイ印象を受けたが、本作ではひと皮むけ、なかなかの大人の芝居を見せる）に直談判。吉岡の直情径行の一面をのぞかせる。

彼女の役の設定は、父親がフリージャーナリストとして滞米し、母親が韓国人とされ、父親は日本政府関係の不正融資をスクープした。それが誤報とされ、周囲の批判を浴び自殺する。そして娘は事の真相を知るために帰国し、新聞社に入社する。彼女には権力犯罪と対峙する体質が本来的に身に備わっている。

◆内調とは

日本版CIAともいえる情報機関として、主として左翼関係や反政府的団体の情報集めを目的とした組織が、内閣調査情報室（略称が内調）で、本部職員は主として警察上りが多く、他の省庁かに対しても盗聴・尾行をしているフシがある。

◆杉原の立場

内調勤務の杉原は、普通ならば吉岡と巡り会うはずのない人間である。しかし、「医療系大学の新設」に関するファクス以来、2人のコンタクトが生まれる。相手の存在は知りながらも、顔を合わせず事件の真相に迫り始める。

吉岡は匿名のファクスが内調から送られたことから、早速、内調から当たり始める。その相手が、官邸の大学新設問題で、被害女性の顔出し記者会見が同じ時期に重なる。2つの事件に直接かかわる正義感の強い社会部の吉岡は早速動き出す。

そして、暴行事件の裁判を傍聴し、その扱いが小さすぎると直属の上司、陣野和正（演じる北村有起哉は文学座の名優北村和夫の息子で、デビュー当時は演技に自信があったのか、ひどくクサイ印象を受けたが、本作ではひと皮むけ、なかなかの大人の芝居を見せる）に直談判。吉岡の直情径行の一面をのぞかせる。

彼女の役の設定は、父親がフリージャーナリストとして滞米し、母親が韓国人とされ、父親は日本政府関係の不正融資をスクープした。それが誤報とされ、周囲の批判を浴び自殺する。そして娘は事の真相を知るために帰国し、新聞社に入社する。彼女には権力犯罪と対峙する体質が本来的に身に備わっている。

女性記者と若手官僚の対峙と葛藤

吉岡

杉原

◆内調の犠牲者

杉原は外務省からの出向で、第一子の出産を心待ちにする普通のエリート官僚である。この彼に、サスペンスまがいの薬味を効かし、本作をタブーに挑戦する政治映画としての謎解きの要素を加え、面白い作品にしている。

杉原は、ある時、外務官僚時の上司に久しぶりに会い、一献交わす。その後、その先輩は、彼に1通の手紙を残し、投身自殺をする。彼の死に疑問を抱いた杉原は、先輩が、官邸の大学新設問題の担当となり推進の役割を負わされ、悩んでいたことを知る。

◆事実のもみ消し

内調の大きな役割として、権力、または官邸による不都合な事実のもみ消しがある。

具体例としては、前川喜平文科省事務次官（当時）が、大学設置の件で「官邸から総理の意向という圧力があった」と、医療大学の新設（加計学園獣医学部）での発言がもとで、次官を辞職させられた一件である。

その後、新聞に前川の新宿の出会い系バー通いの記事が掲載される。民間人を巻き込む、内調のメディアを使った陥れ工作と想像できる記事だ。この前川事件にも、望月記者は直接インタビューしている。

◆内調の犠牲者

杉原は外務省からの出向で、第一子の出産を心待ちにする普通のエリート官僚である。この彼に、サスペンスまがいの薬味を効かし、本作をタブーに挑戦する政治映画としての謎解きの要素を加え、面白い作品にしている。

杉原は、ある時、外務官僚時の上司に久しぶりに会い、一献交わす。その後、その先輩は、彼に1通の手紙を残し、投身自殺をする。彼の死に疑問を抱いた杉原は、先輩が、官邸の大学新設問題の担当となり推進の役割を負わされ、悩んでいたことを知る。

◆事実のもみ消し

内調の大きな役割として、権力、または官邸による不都合な事実のもみ消しがある。

具体例としては、前川喜平文科省事務次官（当時）が、大学設置の件で「官邸から総理の意向という圧力があった」と、医療大学の新設（加計学園獣医学部）での発言がもとで、次官を辞職させられた一件である。

その後、新聞に前川の新宿の出会い系バー通いの記事が掲載される。民間人を巻き込む、内調のメディアを使った陥れ工作と想像できる記事だ。この前川事件にも、望月記者は直接インタビューしている。

◆内調の犠牲者

杉原は外務省からの出向で、第一子の出産を心待ちにする普通のエリート官僚である。この彼に、サスペンスまがいの薬味を効かし、本作をタブーに挑戦する政治映画としての謎解きの要素を加え、面白い作品にしている。

杉原は、ある時、外務官僚時の上司に久しぶりに会い、一献交わす。その後、その先輩は、彼に1通の手紙を残し、投身自殺をする。彼の死に疑問を抱いた杉原は、先輩が、官邸の大学新設問題の担当となり推進の役割を負わされ、悩んでいたことを知る。

◆事実のもみ消し

内調の大きな役割として、権力、または官邸による不都合な事実のもみ消しがある。

具体例としては、前川喜平文科省事務次官（当時）が、大学設置の件で「官邸から総理の意向という圧力があった」と、医療大学の新設（加計学園獣医学部）での発言がもとで、次官を辞職させられた一件である。

その後、新聞に前川の新宿の出会い系バー通いの記事が掲載される。民間人を巻き込む、内調のメディアを使った陥れ工作と想像できる記事だ。この前川事件にも、望月記者は直接インタビューしている。

◆内調の犠牲者

杉原は外務省からの出向で、第一子の出産を心待ちにする普通のエリート官僚である。この彼に、サスペンスまがいの薬味を効かし、本作をタブーに挑戦する政治映画としての謎解きの要素を加え、面白い作品にしている。

杉原は、ある時、外務官僚時の上司に久しぶりに会い、一献交わす。その後、その先輩は、彼に1通の手紙を残し、投身自殺をする。彼の死に疑問を抱いた杉原は、先輩が、官邸の大学新設問題の担当となり推進の役割を負わされ、悩んでいたことを知る。

◆メディアの姿勢

日本のメディアの対権力の姿勢は明らかに右傾している。例えば、NHKへの干渉、新聞の論調のヌルさを見れば分かる。筆者は最近、「朝日ジャーナル」の1990年代発行分に触れる機会があったが、当時の鋭さが現在は大きく後退していることを感じた。

日本では、政治と直接向き合う映画作品が非常に少ないが、本作にはタブーに向き合う意識がある。現代社会の闇を突く作品であり、監督、そして原案者・望月衣塑子のセリフ、現実の日本の状況を前にして、主人公吉岡が、迷う杉原に対し、「自分で自分を納得させるのか、このままで良いのか」と、彼の決意を促す一言が重い。勇気ある傑作である。

〈文中敬称略〉

■『新聞記者』は、6月28日から新宿ピカデリー、イオンシネマほか全国ロードショー

先輩の死で、謎のファクスの羊の絵の意味も解き明かされる。目を黒塗りにされた羊は、神経ガスで殺された米国のダグウェイ神経系毒ガス生物兵器実験場（ユタ州）の羊たちである。ここからが、サスペンス風味の真骨頂だ。

大学新設の目的は、米国のダグウェイ神経系毒ガス生物兵器実験場の日本版であることが内調の秘密文章で判明する。東都新聞は一連の事実を掲載する。

映像新聞無料メールマガジン
Vizcom
映像新聞がお届けするメールマガジン「Vizcom」は、ビジネスに役立つ情報をいち早く提供していきます。
配信登録は www.eizoshimbun.com

情報がビジネスを熱くする。
映像新聞は、放送やブロードバンド、デジタルコンテンツプロダクション、映像制作者など映像業界へ向け、ビジネスとテクノロジーの両視点で情報を発信している専門紙です。映像のデジタル化は、デジタル放送やデジタルシネマといった新しい文化を創り、ブロードバンドにより新しいコミュニケーションを発達させました。映像新聞は、これらの動きをいち早く伝え、新鮮な情報をお届けいたします。
ビジネスを熱くするメディア……それが「映像新聞」です。
●ご購読のお申込み・お問い合わせはこちらへ。
映像新聞社　TEL 03-3942-2161　FAX 03-3942-2581
〒112-0006　東京都文京区小日向1-24-8エイゾービル　e-mail:info@eizoshimbun.com
映像新聞
毎週月曜日、月4回発行（年間48回発行）
基本ページ数
20ページ／タブロイド判
年間購読料：26,000円
（送料込み）＋消費税
（海外での購読の場合は、消費税分を除いた料金に別途送料がかかります。詳しくはお問い合わせ下さい。）
映像新聞ウェブサイトからもお申し込みができます
www.eizoshimbun.com

NAB SHOW®
Where Content Comes to Life

www.nabshow.com



www.nabshowny.com

New York

Javits Convention Center

NAB SHOW NEW YORK
Formerly Content & Communications World (CCW)



10月15日（火）～20日（日）4泊6日

NAB Show NY 視察ツアー参加者募集

NAB Show NYツアー日程表

旅行業公正取引協議会会員　JTB

	日付	地名	現地時間	交通機関	スケジュール	食事
1	2019年 10月15日 （火）	東京（羽田）発	10:40	JL006	空路、ニューヨークへ	機内食：2回
		～～～～～～～～～国際日付変更線通過～～～～～～～～～				
		ニューヨーク着	10:35	専用車	到着後、専用車にてホテルへ（ガイド付） <ニューヨーク/The New Yorker A Wyndham Hotel 泊>	夕食：×
2	10月16日 （水）	ニューヨーク	終日	徒歩	ホテル朝食 NAB2019ニューヨーク視察（ジェイコブ・K.ジャヴィッツ会議センター） ※お客様ご自身で会場へ移動（通訳が同行します） <ニューヨーク/The New Yorker A Wyndham Hotel 泊>	朝食：○ 昼食：× 夕食：×
3	10月17日 （木）	ニューヨーク	終日	徒歩	ホテル朝食 NAB2019ニューヨーク視察（ジェイコブ・K.ジャヴィッツ会議センター） ※お客様ご自身で会場へ移動（通訳が同行します） <ニューヨーク/The New Yorker A Wyndham Hotel 泊>	朝食：○ 昼食：× 夕食：×
4	10月18日 （金）	ニューヨーク	終日	専用車	ホテル朝食 ニューヨーク 放送関連企業視察（通訳が同行します） <ニューヨーク/The New Yorker A Wyndham Hotel 泊>	朝食：○ 昼食：× 夕食：×
5	10月19日 （土）	ニューヨーク		専用車	ホテル朝食 専用車にて空港へ（ガイド付）	朝食：○
			13:10	JL005	空路、東京（羽田）へ	昼食：×
		～～～～～～～～～国際日付変更線通過～～～～～～～～～			<機中泊>	夕食：×
6	10月20日 （日）	東京（羽田）着	16:25		空港到着後、解散	

- 昨年度より NAB Show NY 視察ツアーを開始
- ツアー価格 398,000 円 /（2 名 1 室）
  1 名 1 室の場合、96,000 円の追加料金
  （航空会社や現地事情により変動する場合あり）
- 最小遂行人数 10 名（参加者多数の場合、展示会場内専用サロンの設置）
- 空港ホテル間、専用車にて送迎（日本語ガイド付）
- 滞在ホテル [The New Yorker A Wyndham Hotel] は、マンハッタン中心部（8 番街）、展示会場（ジェビッツコンベンションセンター）まで徒歩 10 分。
- 毎朝食付（ホテル内レストラン）
- 展示会場内ブース見学ツアー（逐次通訳随行）
- 放送業界関連企業ツアー（同時通訳随行）
- 申込締切：8 月 13 日（火）（以降は要相談）

NAB Show NY は、首都ワシントン D.C. からも近い世界金融の中心地ニューヨークで 2015 年より開催。
展示会場はハドソン川沿いの絶景地点。
ニュース、メディア配信、今後発展するインターネット放送など、リアルタイム性とセキュリティー関連の最新製品の展示やセミナーを開催。
NAB Show ラスベガスでは展示されない製品も多数。



ツアー資料請求先

株式会社JTB　新宿第二事業部　営業二課
JTB NAB Show NY 2019ツアーサポートデスク
担当　秋山・小川・村岡
〒163-0426 東京都新宿区西新宿2-1-1　新宿三井ビル26階
TEL：03-5909-8102　FAX：03-5909-8110
MAIL：nab@jtb.com

参加・出展 問合せ先

NAB日本代表事務所（映像新聞社）
担当　福田
〒112-0006 東京都文京区小日向1-24-8　エイゾービル
TEL：03-3942-2381　FAX：03-3942-2581
MAIL：nabshow@eizoshimbun.com

URCFシンポジウム
8K・5G時代の超臨場感コミュニケーション技術

超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム（URCF）および国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）は、「URCFシンポジウム2019～8K・5G時代の超臨場感コミュニケーション技術～」を6月27日に東京・青海の日本科学未来館で開く。

8K本放送が昨年末から開始され、来年の東京五輪開催に向けては5Gネットワークの商用化が計画されている。さらに、AI、セキュリティーに関連する技術進歩、IoT環境も整ってくると想定される。このように、8K、5Gが普及していく時代において、「超臨場感」を視聴者に感じてもらうためにどのような技術開発が必要かに関して意見交換する。

【プログラム】▽基調講演1「Digital to Natural ～ beyond 8K / 5G ～」（NTT取締役、研究企画部門長／川添雄彦氏）▽基調講演2（タイトル調整中）（NHK放送技術研究所所長／三谷公二氏）▽パネルディスカッション「『量』がもたらす『質』の飛躍～高精細映像・高速大容量移動通信によって何が可能になるのか～」

【日時】6月27日／13時―17時15分（デモ展示見学・体験＝12―13時／14時30分―15時30分）、交流会（天王洲アイルの会場へバスで移動）＝18―20時、王星（東京都江東区青海2―3―6）

【参加費】無料（交流会3000円）

【申し込み締め切り】6月21日17時

【申し込み・詳細】www.urcf.jp/news/2083

次世代メディア研究所
電通デジタルが視聴データの活用を解説

次世代メディア研究所は、2019年セミナー「電通グループが目指す未来～データとテクノロジーで実現したいこと～」を6月21日に開く。

視聴データの活用がテレビ界では大きな課題になり始めているが、単に広告取引だけでなく、スポンサーの企業活動全般にかかわる重要なツールになると考える電通デジタルは「People Driven Marketing」を提唱・推進する。人起点のデータ分析で、合理的な製造販売、あるいはサービス提供体制を構築できるようになるという。単なる広告代理業から飛躍し、顧客企業との関係はどう変化していくのか。データ活用の一歩先を議論する。

講師は電通デジタル代表取締役社長の鈴木祐司氏。モデレーターは次世代メディア研究所代表の鈴木祐司氏。

【日時】6月21日／16時―18時30分

【会場】ネオマーケティング セミナールーム（東京都渋谷区南平台町16―25 養命酒ビル）

【受講料】法人会員契約企業は契約人数まで無料、一般参加は2万円

【申し込み】jisedai-media.main.jp/home/reception

日展協が新会長を発表
「展示会の価値を高める」

日本展示会協会（日展協）は5月28日、定時総会および懇親会を東京ビッグサイトで開催し、新会長にマイナビ専務取締役の浜田憲尚氏が就任したと発表した。協会設立以来10年間会長を務めた石積忠夫氏（リードエグジビションジャパン代表取締役社長）は名誉会長に就く。

あいさつに立った石積氏は「会長は各社が持ち回り、全会員が日展協を盛り上げていくことが本来のあるべき姿」と述べ、今最も会長に相応しい人物として、浜田氏を紹介。浜田氏は「展示会が日本の社会にもたらす価値をもっと高めることにチャレンジしたい。国際化も1つの課題」などとあいさつした。


石積名誉会長


浜田会長

人事

◇日本映像ソフト協会（JVA／6月7日付）▽会長 吉村隆（ポニーキャニオン 代表取締役社長）▽理事 安齋尚志（NHKエンタープライズ 代表取締役社長）、山﨑敏（東宝東和 代表取締役社長）＝新任のみ


東北映像フェスティバル「映像コンテスト」の受賞者

東北映像フェスティバル
「映像コンテスト」各賞表彰
東北のクリエイター対象に

東北映像製作社協会主催の「東北映像フェスティバル2019」（5月30、31日／仙台国際センター展示棟）において、東北のクリエイターを対象とした「東北映像フェスティバル『映像コンテスト』」が同時開催され、5月30日に会場内の特設ステージで表彰式を実施した。会期中は受賞作品が会場内のモニターで上映された。各部門の大賞は、今秋に開催予定の全国地域映像団体協議会主催「全映協グランプリ」への応募資格が得られる。

受賞作品は次のとおり（名称は作品、制作の順）。

【番組部門】▽東北総合通信局局長賞「日本のチカラ 畳のゆくえ～¼の可能性～」プライド・トゥ▽優秀賞「とびだせ！IWATE～岩手発！デジタルヘルスケア産業～」フロムいわて▽特別賞「伝承の心（太田神楽編）」ニューデジタルケーブル花巻ケーブルテレビ

【地域振興コンテンツ部門】▽東北経済産業局局長賞「ひとりじゃない」豊里コミュニティー推進協議会▽優秀賞「フラ女将に会いに来ませんか」イメージワークスプロダクション▽特別賞「ふくしま記憶と未来 体験アプリ 望郷神楽～双葉町郡山行政区中間貯蔵施設～」福島県企画調整部情報政策課

【学生部門】▽大賞「つながりの輪を広げて～心のままに歩むまち、川崎～」尚絅学院大学総合人間科学部表現文化学科大野ゼミ▽優秀賞「終わり、はじまる。」酒井まりな、安藤嶺、菅野志帆、山下結衣、名取桜花

【デジタルコンテンツ部門】該当なし

【CM・キャンペーン部門】▽大賞「KITANIHON SHIPBUILDING編」Blue Eight Production▽優秀賞「ホースじゃないホース編」ヒューマンクリエイティブ▽特別賞「荒浜のいちばんを誇りに」ブルーファーム

【学生部門】▽大賞「つながりの輪を広げて～心のままに歩むまち、川崎～」尚絅学院大学総合人間科学部表現文化学科大野ゼミ▽優秀賞「終わり、はじまる。」酒井まりな、安藤嶺、菅野志帆、山下結衣、名取桜花

【デジタルコンテンツ部門】該当なし

キヤノンが25、26日
シネマカメラ用単焦点レンズシリーズ内覧会

キヤノンは、シネマカメラ用単焦点レンズシリーズ「Sumire Prime」の販売開始に伴い、6月25、26日に内覧会を開催する。

Sumire Primeは、PLマウントを採用し、独特な光学設計で被写体を印象付ける柔らかな映像描写を実現している。

展示製品（予定）は、Sumire Prime Lens新製品3式（24ミリ、35ミリ、50ミリ）、PLマウントカメラ3式（EOS C700FFほか）、EFプライム50ミリ1式（比較用）、4Kディスプレーほか。

【日時】6月25、26日／10―17時

【会場】キヤノン港南事業所 2F会議室（東京都港区港南2―13―29）

【詳細】cweb.canon.jp/cinema-eos/pdf/sumire-prime-private-showing-20190625.pdf

九州最大の映像・音響・照明・通信のプロフェッショナル展
九州放送機器展 2019
Qsyu Broadcast equipment Exhibition

「九州放送機器展」は、(一社)日本ポストプロダクション協会九州支部が運営しています。

QBE Qshu Broadcasting Equipment Exhibition

「NEW PRODUCTS × QBE = !?」



入場無料
入場事前登録制
入場を希望される方は事前登録が必要です!
事前登録はオフィシャルサイトから行えます。
九州放送機器展Web
http://www.q-kikiten.com/
※事前登録をWebより行っていただき、登録用紙をプリントして会場にお持ちください。
※登録用紙を忘れた方は会場にて記入しご入場ください。

主催／一般社団法人 日本ポストプロダクション協会
後援／経済産業省九州経済産業局　総務省九州総合通信局　福岡県　福岡市
(一社)日本映画テレビ技術協会　NHK福岡放送局　RKB毎日放送
九州朝日放送　TNCテレビ西日本　FBS福岡放送　TVQ九州放送
ジェイコム九州　西日本新聞社　(一社)日本CATV技術協会 九州支部
日本ケーブルテレビ連盟 九州支部　FM FUKUOKA　CROSS FM
LOVE FM
協賛／九州映像製作社連盟　出展各社（メーカー・販売代理店）
協力／(株)映像新聞社　(有)ユニ通信社　(株)電波新聞社　(株)電波タイムス社
(株)新協社　(株)九州ハートス　(株)スタッフ
(株)ストロベリーメディアアーツ　キッセイコムテック(株)
日本映画テレビ照明協会九州支部

Jppa 一般社団法人 日本ポストプロダクション協会 九州支部

(株)アート・ワークス〈福岡〉http://www.art-works.cc
(株)エスプロジェクト〈佐賀〉https://spro.saga.jp
(株)AREA〈熊本〉http://www.area-p.com
(株)ジェイ・ムーブ〈熊本〉http://www.jmove.co.jp
(株)VSQ〈福岡〉https://vsq.co.jp/
学校法人イーエスピー学園 専門学校 ESP エンタテインメント福岡
https://www.esp.ac.jp/fukuoka/

7/31(水) 8/1(木)
7月31日(水) 開場10:00～閉場18:00
8月1日 (木) 開場10:00～閉場17:00
福岡国際センター 福岡市博多区築港本町2-2

SONY



深い被写界深度で広いフォーカス範囲
4Kスモールセンサー

撮りたい顔にフォーカスし続ける
顔検出オートフォーカス



2つの技術が確実にフォーカスを合わせる。





1/3型 4K Exmor R 3CMOSセンサー搭載
XDCAMメモリーカムコーダー PXW-Z190 希望小売価格 495,000円+税

1/2型 4K Exmor R 3CMOSセンサー搭載
XDCAMメモリーカムコーダー PXW-Z280 希望小売価格 770,000円+税

4K HDR

ソニーが4K映像制作をより快適なものにする。 XDCAM

ソニーのプロフェッショナル/業務用映像制作機材の情報は sony.jp/pro-cc/

広告掲載商品に関するお問い合わせは業務用商品購入相談窓口［フリーダイヤル］ 0120-580-730 受付時間：9:00～18:00（土・日・祝日・弊社休業日は除く）

◎ソニーおよびSONYは、ソニー株式会社の登録商標です。XDCAMのロゴは、ソニー株式会社の商標又は登録商標です ◎本文中にTM、®マークは明記していません ◎本広告に記載の「4K」は3840×2160画素となります ◎商品を安全に使うため使用前に必ず「取扱説明書」をよくお読みください ◎希望小売価格には配送・工事・接続調整などの費用は含まれていません ◎掲載商品の仕様や外観は改良のため予告なく変更することがあります

Sony Business Solutions Corporation
ソニービジネスソリューション株式会社